明治卅五年三月廿七日第三種郵便物認可
明治四十二年二月五日發行　毎月二回(五日・廿日)發行　電話番町千七百四十五番　同五百二十番　振替貯金口座一一三八一番

愛國婦人

雪中松

御製

としとしにゆきを
かさねておいまつの
みさをたかくも
なりまさりけり

皇后宮御歌

きみかよのちよを
かさねてふるゆきに
いよいよたかく
みゆるまつかな

社説

富國

今日世界列國の、はげしき競爭の間に立ちて、一歩も引けを取らず、益々我が國を繁昌せしめんと欲せば、先づ、大に國を富まさゞるべからず、國の富は、身體の血の如し。貧血なれば、身體の養ひ不十分にして、活潑に働かれざるが如く、國が貧乏なれば、兎ても、仕事は出來るものにあらず。

然らば、我が國は、富めるか、貧乏かといふに、見方にては、いづれとも云ふを得べし。即ち、昔から見れば、今は富み、又朝鮮よりは、大身代なるに相違なし。されど、昔や、朝鮮と較べて、喜んだ所が、仕方がなし。然らば、歐米の一等國と較べては、如何にといふに、我が國は、なほ大貧乏にて、殆んど較べものにならず。情けなけれど、まだカンテラ世帶なり。左に論より證據を擧けて、これを示さん。(以下の統計は有賀博士に據る。)

日本全國の富は、土地、家屋、物件までも、悉く入れて、總計白十七億圓なり今これを五千二百五十萬の人口に割り當つれば、平均一人の持前は、僅に二十三圓のみ。然るに、イギリスは、殖民地を除き、本國のみにて、一人の持前は、三千〇三十圓、アメリカ(合衆國)は、一人四千三百四十圓なりといふ。

		一人の持前
日本		、〇二三圓
英國	同	三、〇三〇
北米	同	四、三四〇

即ち、英人は、日本人の二十五倍、米人はその三十六倍の富を、各人が有するなり。次に日本人一人一年の平均收入は、三十五圓ともいひ、又は六十圓ともいふ人あり。勿論子供、老人、婦人の、少しも收入なき者をも入れての話なれば一人六十圓は多過ぐれども、假りに六十圓として見て、さてこれを英米人の收入と較ぶるに、英人一人一年の平均收入は三百六十五圓、米人は四百四十五圓なり。

		一人一年の平均收入
日本		六〇圓
英國	同	三六五
米國	同	四四五

即ち英人は、日本人の六倍以上、米人はその七倍以上を、毎年一人づゝが儲け居るなり。世界の競爭は、富の競爭なる以上は、小い財布て、大きな財布と、同じ事を遣つて行ける理窟なし。故に我が國にては、政府にも、民間にも、仕たい仕事は、山ほどあれど、無い袖は振れず、先立つ金がなければ、何も角も、繰り延べ、繰り延べにて、それだけ、世界の競爭に後れつゝあるわけなり。誠に殘念なれど、致し方なし、唯此上は、國民一同大奮發を以て、一方儉約を守ると共に、一方盛に、生産に從事して、一日も早くこの貧乏の境遇を脱することを努むるにあるのみ。また、何を恃んで、奢侈贅澤に耽けるの餘裕あらんや。

統計は、なほ我等に、多くの事を教ふるなり。工業の盛衰は、國の富貧と至大の關係あり。而して工業の盛衰は、その石炭の消費高を以て計量するを得べし今日本、英、米、獨、佛の、一年に於ける石炭消費高を見るに、左の如し。

日本	六百萬噸
英國	一億八千六百萬噸
米國	二億三千六百萬噸
獨逸	一億一千〇〇萬噸
佛國	三千八百萬噸

即ち英は、日本の三十一倍、米は凡そ四十倍、獨は十八倍、佛は六倍の石炭を毎年消費するなり。次に世界の一等國に於ける一昨年の輸出入(貿易)總額を見るに、

日本	九億二千六百萬圓
伊太利	十六億〇〇四百萬圓
佛國	三十六億〇〇〇〇萬圓
墺地利匈牙利	四十三億〇〇〇〇萬圓
獨逸	四十五億八千〇〇萬圓
米國	五十四億一千七百萬圓
英國	九十七億三千〇〇萬圓

世界の各一等國の貿易高が、日本の幾倍に當るかは、改めて言はずとも、この表を見れば、分るべし。貧乏國と言はるる伊國すらも、我が國よりも七億圓餘計の貿易をなし居るなり。猫の額ほどなる瑞西すらも、九億三千萬圓にて、日本は國富の最大要素たる貿易上の位置より云へば、二等國以下なるにも拘はらず、一等國だけの軍備をなし、實力を持せざるべからず。その苦しさは、使ふ一方の人には、分らぬか知らねど、政府も、民間も、一家の主人も、骨身に徹へて、ウンウンと唸り居るなり。毎年議會にての大問題は、豫算にて、有りもせぬ金をあれへも、これへも割り當て、大晦日の難場を過すが如き有様、氣の毒にて見て居れず。一家の豫算もまたこれに準ず。實に今日、日本は、官民ともに、富の缺乏にて、困り居る時なり。これが二等國三等國に落ち、或は他國の支配に甘んずる積りならば、手間隙は入らず、呑んで遊んで、寢て居れば、直になれること受合ひなれど死んでもそれはお互に厭やなりそれが厭やならば、外に法もなし土に喰りついても、辛抱して、富を作ることを國民一同努めざるべからず。

會告

來る六日午後一時淺草本願寺に於て本會主唱者故正七位勳六等奧村五百子氏三週忌法要相營み候に付き隨意御參拜相成度此段廣告候也

追て前號には七日と廣告候處都合に依り前記の如く變更候に就き右御諒承相成度且又五百子氏墓碑も出來致居候間右併て廣告候也

愛國婦人會

創刊明治卅五年三月廿七日●定價一部金三錢五厘
半年分金四十二錢●全國無遞送料●廣告料一行六十錢
發行所東京麹町區中ヶ淵公園内愛國婦人發行所●
發行兼印刷人山澤俊夫●編輯者永持德一●全部禁轉載

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論議

如何して人生を樂しく幸福に過すべきか(三)

鳩山春子

長命と云ふことは結構で御坐います。が、併しながら唯だ長命致たいと思ふばかりで、其長命を上手に使はぬ限は、長命必ずしも愉快な一生と云ふ理には參りませぬ。又、外部ばかりから考へて見れば、身分が好くなつて、財産が出來まして人の上に立てば、既それが眞の幸福と思ふ人があるかは知りませんが、然らばと云つて、果して是等のものゝみを以て幸福と云ふことが出來ませうか。論より證據、それ等の人を一人々々調べて見たらば恐らく高い地位に居る人程複雑な生活を送つて居ることゝ思ふ。自分の一身のみに就いて考へて見ても餘り人間が複雑になり過ぎると、兎角眞實の幸福を感じないかと思ふ。外部からは大層幸福らしく見へても決して左様では御坐いませぬ。鳥渡したことでありますが、例へばお客をするにしましても、少數のお客であると愉快に打解けることも出來て大層幸福である。ずれども漸次交際が廣くなつて來ると少數のお客で宜いと云ふ理には行きませぬ。が、大勢のお客となると仲々面倒で御座います。彼方を招んで此方を招かないと大層感情を害するものです。まあ、斯う云つたやうに、鳥渡お客をするのにも人知れぬ心配を致さなければなりませぬ。

それから義理を致すとしても、先方から何か下さつた時、充分に返禮を致したいと思つても、此方へ返禮して彼方へ返禮を致さぬと云ふやうなことがあつては不可ませぬ。ですから、交際の廣くなつた爲めに却つて餘計な心配があります。何うも一得一失で、種々の人に逢へば益になることもあるし、又聞見が廣くなつて來るが、一方には夫れに伴ふ心配もあつて、仲々外から見るやうな理には參りませぬ。兎角生活が複雑になるに随つて人知れぬ心配を増すことが多いであらうと思ひます。

何事も運命ですから、さう無理に生活の複雑にならないやうに、又高い地位にならないやうに、又餘り財産の出來過ぎぬやうに強ゐてするにも及びませぬけれども、複雑なことは成る可く互に避けて、大して雙方の利害に關係しないやうなことならばお互に少しは恕し合つて、左様して又互に同情を保つやうに致したいと思ふのであります。例へば或部分でお客をするとか又は自分がお客をする時に、お客が大勢であると或る人を招くことを忘れることが随分あります。併し決して悪い心でするのではないから、其様なことで深く人を咎めないやうな習慣に致したいと思ふのです。世間には左様いふことが随分あるやうですが、萬望斯う云ふことで友人を失はないやうに致したく、又此様な詰らぬことで人の心を穿ち過ぎないやうにしたならば、互に幸福が多く常に愉快であらうと信じます。

斯う餘り穿ち過ぎないやうに、自分で斷念を善くし、如何なる境遇に居つても自分は一番幸福であると思ふてさへ居ることが出來さへすれば、自然と自分も愉快であり、心も自然に若やいて來やうと思ふのであります。斯く心が若やいてさへ來れば決して早く年を取らない。何にせよ、日本の婦人方も彼のヂスレーリ夫人の如く、八十歳になつても精神は仲々年を取らず、自分を愉快に幸福に致すと同時に人をも樂しく愉快に世渡りの出來るやうに導くことの出來るやうな何時もそれ程若くて居るやうになつたならば、大層宜しからうと思ひます。(をはり)

自轉車と教育

男爵　奈良原繁

私は常に教育は自轉車のやうなものだと、皆様の問に對して答へて居るのであります。

斯う云ふと、私は自轉車が上手のやうに思はれるか知らぬが、決して自轉車に乘ることはありませんので。併し私が自轉車の様なものだと云ふことは、説明なしては鳥渡判りが悪からうと思ひます。御承知の通り、私は明治二十七年より沖縄縣の治政、就中教育に力を盡して居ります。て、老年の今日までも草鞋穿きて東奔西走して、學齢兒童の數が全國の第四位か七位かになつて居ると云ふ結果を見るに至つたのであります。

斯く私が教育の爲めに働くやうになつたのは、彼の自轉車が活動しつゝある間は巧に轉々して社會に便益を與へますが其活動を中止しますと、直に轉覆すると同じやうなものであると、斯う教育に就いて考へたからであります。斯う考へた結果、飽くまでも教育のことに活動して見やうと云ふ勇氣を得たのであります。制度とか、形式とかは兎に角、教育の實力を發揮するには、是非とも活動を基礎とせねばならぬと思ひます。

肺結核は不治の病にあらず

醫學博士　三浦謹之助

何人も恐るゝ肺結核は不治の病として世人が誤認せしより、以前に人々の考へたよりも一層恐ろしき病なりと稱することになり居れるは、實に笑ふべき愚なことであります。

總ての學術が著しく進歩しつゝある二十世紀の今日に於て、勿論醫學も共に大なる發展を致して居るのは何人も疑はれぬことゝ思ひます。例へば彼の梅毒にも根治劑が發見せられたる如く、總ての難治と云はるゝ疾病にも根治療法が學術的に明諒にせらるゝ日も、必ずや到來することは明かな事と信じて居ります。

▲治癒者百人中二人以上

肺結核の如きも近者に至り餘程著るしき研究の歩を進め、有名なる血精療法が唱導せられし以來は、結核菌の有無によりて肺結核患者なるや否やを確認することゝなつたのではありますが、唯根本療法として藥物療法も、血精療法も、五里霧中に彷徨致し居れることが甚しき遺憾のことゝ存じて居ります。然しながら自然に治癒せしものが百人中二人以上に達し即ち此二人以上の人が確に健康なる者となり了せる事實は、對症療法を行ふ藥物療法の功能か、或は他の原因なるか、未だ確言する事が出來ないのであります。

それは兎に角、海上生活とか海濱生活とか、山中生活とか、活動を與ふる精神的療法とか、其人、其人に對して行ふべき藥物以外の療法も大に預つて力あることで御座います。若くはまた宗教上の迷信に依りて治癒せるものもあるのであるから、絶對的に不治の病なりと恐怖する事は誠に愚なことであります。

▲傳染性と遺傳性に注意せよ

何に致せ肺結核は感染し易き傳染性と遺傳性とに富て居るもので御坐いますから、該患者と健康者との嚴重なる區劃が一家の中に勵行せられ、患者の用ゆる一切のものは時々消毒を行ひて健康者に傳染せざるやうに努ることが第一の急務で御坐ります。

患者の用ゐしもの、如きも價易きものは、成るべく灰燼となす方法を社會一般に用ゐる經濟狀態となる日が是非來らねばならぬ事で御座いますが、今日の日本ては住みし家をも灰燼となすべき大消毒法は實行すべからざる事で、肺結核よりも一層恐るべきペスト病にさへ燒燼すると云ふ事は、消毒法から嚴格に批評すれば左程價値ある事てはありませぬ。

▲公德の發達を望む

燒燼せしと同様に大消毒が藥物等によりて出來得る事でありますから、社會一般の公德が發達して肺患者の用ゐしものを消毒せずに移動するやうなことを絶對に禁絶する事が、餘程の効能があるやうに思ひます。

病院に來りて診察を享くる患者に必ず入院を勸告するのは、家庭と隔離する一種の豫防法であります。肺結核患者なれば、予は結核患者なりと標榜する勇氣を以て、自ら健康なるものと交際を避ることが必要な事で御座います。然るに世の中の通弊として自己の結核病なることを努めて包み蔵し、平然として傳染せしめつゝあることは厭ふべき事であります。

斯の如きことは是非社會風教上から制裁せられて、自他共に傳播せしめざることに注意せらるゝことを希望致し居るので御坐います。

建國時代に於ける我國の婦人(一)

沸水生

婦人と男子とを大體の上に就いて比べて見ると、婦人は男子よりも容貌に於て大に優美であり、壽命が永く、慈愛の心が、より多く發達して居り、記臆が好く忍耐性が強く、知覺が迅速で、同情が多大であることは、古今東西の學者が調べた學理上の根據から見ても、實際上の調査に依つても疑ふことは出來ぬのであります。それと共に、婦人が男子に比して感動性が多大であり、感情の動搖することが多大であることも疑ふことは出來ませぬ。就中、婦人が吉凶禍福に心を動かさるゝこと多く、權威に従順であり、依頼心が強いと云ふことは、御婦人方自身ても恐く認めて居らるゝことゝ思ひます

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

如何して秀逸なる歌は詠むべきか

御歌所寄人　千葉胤明

▽眞情より出たる歌

古今集の序に、歌は人の心を種として萬の言の葉となつたものだと書いてあります。之は眞情を吐露したもので無ければ、誠の歌では無いと云ふ意味なので、譬へば景色に對した時は、その瞬間に自分の心に映つた感想を、僞らず飾らず有の儘に詠まねば、歌と云ふ事は出來ないのであります。即ち實景眞情は歌の生命で之を失へば決して歌ではありません。

斯く申せばとて眞實でさへあれば何でも構はぬかと云ふのではありません、日常の座談平語は在の儘かも知れませんがそれを只そのまゝに詠んだとて、三十一文字の眞隨を得たものとは申されません、然しこの座談平語でも、人が見て感興を催ふすやうに、上手に詠めば立派な歌ともなります、要するに、眞情實景の心得があつて、然る後勉めて練磨すれば秀逸なる歌は期せずして詠む事が出來ます。

▽旅行は歌の最好き練習地

人には平常誰でも夫相當の職務がある殊に婦人には種々の繫累があつて家事上細い用事が多く、歌など詠んで居る餘裕の無い方が多い。

然し夏とか冬とか、或は避暑避寒と云はず、身體の都合で温泉とか又は海濱とかに旬日の旅行を試みると云ふやうな折か必ずある事と思ひます。

然樣云ふ時こそ又と得難い絕好な機會て、目に見ゆる景色も變化があり、耳に聞く話も珍らしき感じを與へらるゝ故に萬事萬物一として歌題とならざるものなく、殊に平素家に居るのと違ちて、別に之と云ふ用事も無く、思ふ儘に歌を作ることも出來ますから、旅行は歌の練習地として最も適當な折であると信ずるのであります。

▽手跡の拙きは見よからず

初學の方が歌を詠むに就て、心得べき事は前述の通りでありますが、夫につけても心して習ふべきは手跡てムいます。

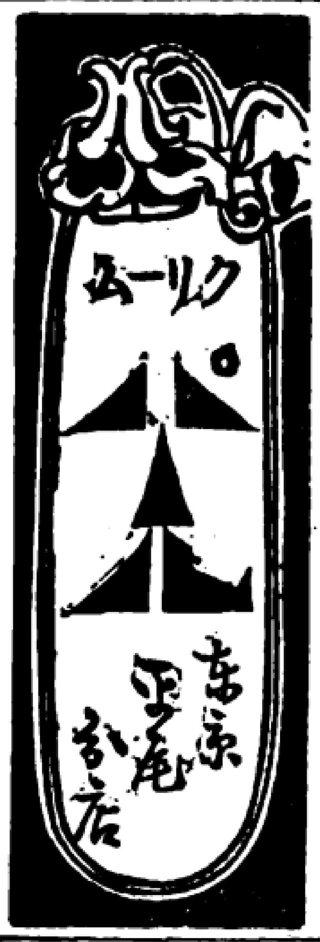
いか程うまい歌でも、それを書いた字が、金釘流の拙惡な手跡であつたならば單に見苦しい計りて無く、爲に上手な歌もまづく見える、而已ならず心ある者はそんなのは始めから相手にしません、始めから侮蔑して掛られるやうては、その人の損失は極めて大なるものでせう。

字は姓を書すれば足るとは、唐人の寢言て、書けない者のまけ惜みてす。

されば歌を詠む者と、詠まぬ者とを問はず、誰ても習はねばならぬのは筆跡て殊に婦人は身嗜みの第一として、も必す習はねばなりません。いかに貞淑な婦人でも野卑な文字を書けば、その身の人格「も疑はれます、その人を知つて居るものは宜いが、他人はその人の品性をも蔑視する婦人に取つて品性を侮られる程の不名譽は外にありません。

▽邪路に迷ふべからず

樹には必ず材がある、大きな道には必ず多くの橫道があります、同樣に歌にも種々の枝條や橫路があつて、流派爭ひと云ふやうな事もあるやうに見受けますが初學の者は決して邪路に踏み込んではなりません。大道は只一つてす。傍觀をしないて、只向に進まなければなりません目的は實景眞情てす。僞らず飾らず實景眞情を詠むと云ふ事を、御忘れにならなければ、遂には鬼神をも感ぜしむを得るやうな、佳什傑作も出來ると信じます。



趣味修養の必要（三）

早稲田大學講師　紀淑雄

元來趣味といふ言葉は、味感に關して用ひられたもので、此意味ては實感的のもの、低き劣つた感覺によつて味はるゝものとなるのでありますが。併し今はかかる意味ていふのてはなく、文藝に關しての趣味の修養の必要を云ふのてありますが、此の意味に於てもまたいろ〳〵に用ひらるゝのてあります。

其の一つは美的感覺を示す意味に用ひられ、今一つの意味ては、人をして美術に於ける結果を認めしめ、且つ其性質についての品判を示すのてあります。あの人が美しいものに對して趣味を有つて居るといひます時には、其の人は美しいものに對つて鋭い感覺を有つて居るといふ事て、初の方の意味て用ひられたのてあります。それから又あの人が美しいものに於てよい趣味を有つて居るといへば、其の感覺を與した所の麗しいものに就いて、正しい適當な批判力を有つて居るといふ事になるので、即ち後の意味て用ひらるゝのてあります。

針仕事　木村光太郎氏筆

人によつては自然の佳い景色や繪畫や音樂などに對して、非常に強く其の美を感じ得る處の人があるが、併し其の感ぜしめた所の美しいもの、性質または特別の要素が何てあるかを指示し批判し得る事の出來ない人がある。これは初の方の意味に用ひられし趣味の人て、此の樣な種類の人は世間に多くある。そしてかゝる人の趣味はかの味感に關した趣味の如くに受動的の趣味てある。又世間にはさまて美を感じないが、併し文學や美術に對して適切な批評をなし得る所の人がある。かゝる人の趣味は後の方の意味の趣味て、其の趣味は能動的である。併し元來受動的てある感覺的の趣味も能動的となることは、味感の鋭い、料理人は旨い味の料理を調理し得るやうに、文藝に關しても、これを受動的に感じ得ると同時に、一方ては又學理の敎へたる法則を應用して文學美術の美はしい特色を批判し得ることが出來るのであります。趣味の低い人から見れば、此等はいづれも自然界若しくは文學美術界に於て、より多くの美を認め、それに就て、より深く樂み得る幸福を受けた所の人と謂はれましよう西洋の人は交際場裡に文藝の事を口にし得ざるを以て耻とし、婦人てさへも年年の展覽會の繪畫や彫刻について多少批評的意見を有つて居られる。また音樂的の耳を有たぬ人は極めて少ないのに比べると、我が國ては中流以上ても文藝に對して趣味を有つてゐる人は餘り多くない貴婦人にして尙ほ文學や音樂や繪畫や彫刻を解せず、此等に對する趣味の野生的なる證據は、一時間と對話せぬ中に發見せらるゝことが屢々あるてせう。演劇に行けば藝術の美醜よりも、寧ろ俳優其の者の上に注意し、服裝調度の類に對しては、色合、模樣、形狀、製作等の良否よりも、寧ろ價の高き方を選ぶ人の多きはよく聞く事實であるが、斯る人々は、いかに少なく美を樂む人てありませう。

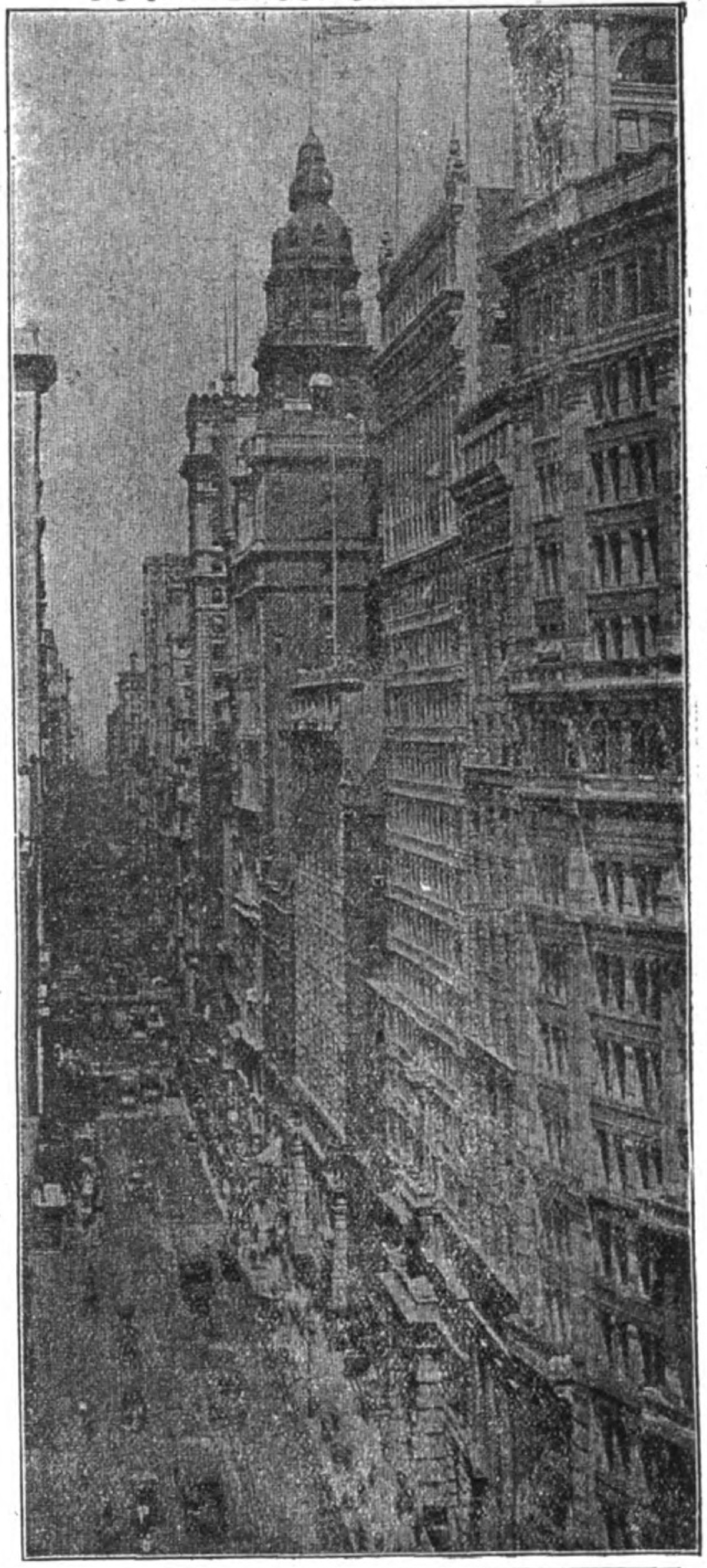
美的性質に於ける趣味と云ふものゝ、一體文藝に於ける關係は、恰然良心と云ふ者の道德性に於ける關係か、若しくは判斷力が智性に於ける關係に似てゐる。恰然道德心を開發し高上ならしむるにつれ、其の人の良心は益々善良なる行爲を爲さしめ、又知識の增すに隨ひ、其の人の判斷力が益々善き判斷を與ふるやうに美的性質を修養すると其れに從て其人の趣味は益々修養改善さるゝのてあります

素より人間の知識ては絕體的の眞理を知り得がたいやうに、假令趣味が高上しても、絕體的の美をば認むることか出來ないにせよ、美的性質と共に趣味が高上するにつれて、其の絕體的圓滿なる美に一步〳〵近づくことが出來ませう。又他の方て煩悶し失望したる心を之れに依つて慰籍し、人生の意義、人生の價値を感得し、讃嘆することも出來やうと思ひます。

（をはり）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

世界の大商業地紐育



高等小學以上の敎育を受けられた程の人で紐育の名を知らぬものは無からうと思ふ。

現在の人口一千萬以上——と云ふと方しく北米合衆國の全人口の五分の一に優に相當して居る。これが今では大紐育市として世界に知られて居る土地の人口である。一千萬の人口は別に驚くに足らぬとしても、僅か二百五十年以前には、現在大紐育市の中心を爲して居る、其頃マンハタン島として知られて在つた土地全體が僅々二十四弗と云ふ極めて僅少な額で土着の印度人から購はれたものであると聞くならば、何人にしても、好くもまあ僅々二百五十年の中に、かゝる大市街として發達したものと打驚くの他は無からう。無論、今日では幾百萬弗出したとて大紐育市の中心を手に入れるとは、到底出來ないことである。

何故紐育の市が此樣に盛んになるのかと云ふに、紐育は商業の中心點だからである。最近の二十年のみに就いて見ても紐育は驚くべく多大の發達を遂げて居る此二十年の間に北米二千市街の商業を殆ど此紐育一市街に集中し、商況の盛り行く有樣は殆ど蜂の巣の如くなつた。

紐育の歴史を著したピーター・ミニュイト氏は千八百八年に於て豫言をして居る。當時七萬五千人の人口の紐育は三四百萬の人口を有する都市に發達することであらうと。その頃は汽車線路が漸と開通された當時であつた。汽船が初めて建造された當時のことであつた。而も其當時に於てはミニュイト氏の豫言は大膽に過ぎるとまで世人から云はれて居たのである。然るに今日は早くも一千萬以上の人口を有するに至つた。何人か之れに對して今昔の感莫からうぞ。

聞く處に依れば一昨年に於ける紐育市人口の増加は四十萬であつたと云ふ。かかる人口急劇増加の原因は年々五萬人の人が結婚するに在ると云ふことである。かゝる定期の人口増加のみか、日々他の土地から紐育市を見舞ふものは十五萬人と算せられ、期節に依りては三十萬人を以て數へらるゝこともあると云ふ。

とは云ふものゝ、紐育は北米合衆國全體の運命に對し重大な目に立つ出來事の生ずる都會では無い。紐育の多とすべきは世界に於ける最大の自然の港の幾何かを惠まれて居る點に在る。此自然の良港は長細き島の內外兩部にある。歴史的のハドスン河の兩岸にもある。かゝる自然の特權に依つて惠まれて居るが爲め紐育は世界の商業地として第一等に在る。

のみならず、紐育には其領內に三十一個の個々別々の島がある。しかも其の大多數は深い海で廻らされてあるから、船舶の繋留には極めて好都合である。これが過去と現在に於て紐育が商業地として多大の隆盛を致した大原因の一だと思ふ斯る多數の島を合める都市は、伊太利のヴェニスを除いて他に無い。

尙又紐育は歐羅巴への大關門である。爲めに歐羅巴行きの貨物は北米各地とカナダとから盛んに集つて來る。されば、千九百七年には約三百萬の人が此紐育の關門を通過したと云ふことである。

附記　此處に寫眞版にして揭げたのは

ブロードウェイと云ふ紐育で最繁華の街世界最長い通りであります。

家庭

賢母 嘉悅勢代子

海村

一

其門弟に墺國大使內田康哉、警視總監龜井英三郎、衆議院記官長林田龜太郎等を有てる嘉悅氏房氏は七十五歲にして、今にはや亡き人の數に入られました。嘗ては膽澤縣の大參事となり、熊本縣選出の代議士となり、西部自由黨の首領とし政界に其名を轟し、退いては育英の事業に寢食を忘れたりと云ふ嘉悅氏は、門人として朝野に知名の人を遺し、子女として陸軍少佐敏氏、女流敎育家孝子女史を此世の形見として千駄ヶ谷の閑居に永き眠りに就かれたのでありました。

此政界の偉人を生みしは、如何なる婦人であつたか、今、私は此偉人の母を紹介するを限りなく樂しく思ふのであります。妻として母として、眞に理想に近き婦人と云ふ程の價値ある事を深く信じて疑はざる次第であります。

二

母、其名を勢代子と云ひ、熊本藩細川侯の御殿醫松岡某の最愛の一人娘でありました。生れてより世の荒き風にも當らず、多くの人に侍づかれて、育てられたる勢代子は、嫁いて嘉悅家の主婦となりました。當時嘉悅家は、不幸に不幸を重ねて、家祿を以つて家を支ふる能はざる程の貧に迫まれる時、勢代子は其不幸なる家の主婦として、家運挽回の責任を負ふことになつたのであります。

されど固より家格と財資との威光の中に人となれるかよわき一婦人は、快刀亂麻を斷つがごとき、はかばかしき事も出來ず、大厦の覆らむとするとき、よく一木の以って支へ難きが如く、遂に城下の生活に堪へられないて、熊本縣上益城郡山出村と云ふに、居を移すに至つたのであります。

生活の難は日を追うて甚だしく、朝夕の煙さへ覺束なき程となりました。嫁するときは、眞に壯麗を極めたと云ふ長持十三、簞笥十五、中に充滿せる衣服調度一枚賣り二枚賣つて、僅に生活の資に宛てられたと云ふことであります。婦人としては眞に身を裂く思とは此事でありませう。されど勢代子は、つゆ夫らしい面なく、如何なる場合と雖も夫に對しては極めて從順であつたと云ふ事であります

貧すれば論すと云ふ諺がありますけれども、此家のみは絕えて口八ケましき爭ひの聲せず、四時春風の駘蕩たるありさまでありました。嘉悅氏房氏は、實に此貧困にして而して平和なる家庭に生ひたちましたのであります。

家庭料理

津川千代子

▽さしみ代りのつゝき

わかめは水につけてかたき處をとり細かにつみます。そして葱と一緒にして鹽酢につけておきます。

大根はせん切りに切つて此も鹽酢に二十分間程つけておきます。

まぐろは四五分位の角に切つて鹽をしてしばらくおき後酢につけます。

うどはよき處を少し極細く白毛のやうに切りて水につけておきこれを化粧うどに用ゐます。殘りは皆たんざくに切つてこれも水につけておきます。別に並味噌を十人前として百目をよくすり、からしを一勺程たてて入れ、砂糖を茶吞茶碗に一杯程入れ、酢八勺程入れてよくすりうらごしにかけてこします。

味噌が出來上りましたら前の品々をよくしぼつて一緒にまぜます。化粧うど(細く切つたうど)は前に笊にあげて水けをきりおきぬたを器にもつてその上に少しかけます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小説

隠れたる徳

斎藤弔花

三

橋詰といふのは可笑な苗字だ。これから一つ話さう。老人は朴訥な口調で「村の東を流れてゐる大瀬川、お前さんも御存知のあの川さ。あれは昔渡船があつて、東海道への通路であつたが、何しろ、山が近いので雨が降ると直川止さ。旅人の困難一方ならず、其處で今の橋詰欣一郎殿の先々代、媼さんの父親に當る人が橋を架けた。自力で以つての。人足を傭ふのから、材木から、村の衆には一文もかゝらぬ。一文でもかけるとなると諾い反ぢや。其樣でなくとも、吉右衞門（當時苗字が大屋とか云つたが、吉右衞門〳〵で通つた）め、いらぬおせつかいをしやアがある。橋が架るか、架らぬか、一つやつて見ろ。と船頭仲間が意地に成る。旅籠屋連が邪魔をする。一時は中々の騷ぎだつた。其事が吉右衞門殿の耳に入ると、驚くかと思ひの外、案外平氣の平左で

「小さい事をいふ奴等だ。お主達の云ふ事は、一村一家の爲めになることなら、天下の衆が行惱まうが、交通が阻らうが其樣なことを眼の中に置かぬといふのか邪魔をするなら、して見るが可い。俺には慾得がない、正直な天下大勢の便利を謀るのぢや。神樣が宿つてござる。」

と云つて、毎晩橋の詰に起臥して到頭立派な橋普請が出來た。出來たと思ふと、橋梁を造つた奴の惡い智慧が交つてゐて雨が降りつゞいた五月の末、橋が出來上つて一月經つか經たぬに流失て了つた。

樣見ろ！　村の者は冷笑した。吉右衞門め、最早懲たらう。と内々見てゐると老人又山から材木を伐り出した。

架けては流し、架けては流し、三度目には、村の者も其至誠と熱心に動かされて、大勢が無貫で橋普請に出た。村の者が職業を失つたのは氣の毒だ。併し、人の難氣を見込んで泊り宿をつくり、法外の賃錢を貪つて、別渡を出すなどといふ面白くない者があつては、到底家は立たぬぞ。何でも人の爲よかれといふことを第一として正直に働け、杢兵衞の裏山を拓いて、果樹を栽ろ、太郎作の山田は水が干ぶ。井戸を掘れ。と一々世話を燒いて、一致を失つた村の者はそれ以上の收穫が出來た。そして村の南端には、廣い往來が出來て橋がかゝり、便利ぢやと云ふので、隣村から轉宅して來るものが多く殖ゑた。媼さんの幼い時この老人が敎育したのぢや。第一見さつせい、肥料は可い。種は善い。生長なつたその娘には、男も及ばぬ毅然した好い花が咲いた。

義狐三吉

村羊生

二

肥者の祖父がまだ子供の時だといふから、無論德川時代の事に相違ない。先々代の平右衞門氏が家老を勤めて居た頃とのみで年代は明らかでない。

ある年の秋、磯釣から歸りがけに、柳原村の手前半里許りの處に來かゝると、突然右側の藪蔭から一匹の狐が飛び出し急いで通り過ぎやうとする氏の足許にひれ伏して、何か頻りに哀を乞ふ樣子の、如何にもいぢらしいので、思はず思案の足を止める間もなく、贼の聲をあげて氏の面前に飛出したのは十五六人の百姓共である。見ると手々に梶棒や鋤鍬ふをりかざして、今しも氏の足許に小さくなつて打慄えて居る狐を押取り卷き、口汚なく何事をか言罵りながら、我れ先に撲殺せんず見幕に、さてはと悟つた石原氏は、半ばは好奇心、半ばは惻隱の心から、はやる百姓を暫時と止め、どうした譯かと尋ねると、近頃村の鷄が度々攫はれるので、乾度狐の所爲に相違なし、との斷案から、昨夜村の若者が十餘人寢ずの番をして居たが其の夜に限りて出て來ない。忌々しくて堪まらないから一同相談の上狐狩りと出直し、今しも鎭守の狐穴から漸く此處まで狩出した處だといふ。

石原氏は默つてそれを聞いて居たが、やがて言葉靜かに容を改め、成程そういふ譯であつたのか。至極尤もな次第ではあるが、かくいふ拙者も侍である。窮鳥懷中に入るも、獵師は是れを捕へずの喩もあり、假令相手が一匹の狐であらうとも、かうして救ひを求むるものを、無情にも其の儘見棄てたとあつては、兩刀の手前、武士の面目がたゝぬ。腹もたゝうが此の場は平に拙者に免じて穩かに引取つて貰ひたい。それとも強つての事とあらば、侍の意地で止むを得ない。不本意ながら拙者が相手になつて遣はす。返事を聞かうと正面から出られたので、百姓共は案に相違、飛んだ土俵際で不覺を取つた力士も同樣、相手が武士では手の出しやうもないので、それでは旦那のお顏に免じ、此の場の始末は貴殿にお任かせしませうと、不承々々に一人去り二人去つて石原氏と狐だけが取殘された。

三

そこで石原氏は狐に向ひ靜かに頭を撫てがなら、さながら人に物言ふ如く、假令畜生であらうとも、性根があらば聞いて聞け、お前がかうして助かつたのも、よく〳〵生命があつたからだ。是れを機會に一念發起、必ず村人に迷惑をかけぬやう、心懸けたがよからうぞと、懇ろに言ひ諭し、いざとばかりに立ちあがつた。

狐は默つて頭を垂れ、一心に氏の言葉に耳を傾けて居る樣子であつたが、やがて氏が立去らうとするのを見ると、何と思つたものか、自身も一所に立ちあがり、氏の後から、スタ〳〵と歩きいだした。

石原氏は最初一丁か二丁が間であらうと思つて、別に氣にも留めなかつたが、十丁行ッても二十丁行ッても狐は立去る樣子がなく、相變らずのそり〳〵と伴隨いて來るので、是れではならぬと二度追つて見たが少しも立去る氣色がない。そのうちに早や大山街道も近くなつたので。犬にでも出會しては事面倒と、手招して狐を近づけ、汝の志は嬉しいが、もう城下だから、此の上伴隨いて來るのは無用にして欲しい。殊に城下には恐ろしい犬も澤山居るから、今のうちに歸つたがよからうと、事をわけて說き聞かせた處、狐もそれと悟つたか、溫順に元來た道に引返したが、間もなく姿は見えなくなつた。——斷つて置くが其日は恰度舊曆十三日で月のよい晩であつたといふ。

四

石原氏が馬場町の屋敷に歸たのは今の時刻にして八時過ぎる頃であつたさうな。ふと見ると門前に見馴れぬ一匹の小犬が居る。何氣なく通り過ぎやうとして氣がついた、小犬と思つたのは大違ひ、それが紛れもなく今の先刻、大山街道で別れた狐であるのを確かめた時には、道の平右衞門氏もハッと思つたさうな。狐はと見ると、さも懷かしげに氏の顏を見あげては頻りにお辭義をして居るので、畜生でも是れ程恩に感ずるものかと、少からず心を動かされたが、犬や猫と違ひ、異逆屋敷の中に飼つて置く譯にもゆかないので、其の儘門前に拂ひを食はせたら、或は立去る事もあらうかと、急いで門內に駈け入り、潜り戸をピシャリと閉めて、暫く門外の樣子を伺つて居たが、別に入つて來る模樣もないので、先づ是れで一安神と、其の儘內へ引込んで、勞れて居る事でもあり、夕飯を食ふと直ぐに床に入つて寢て了つた。

翌朝眼がさめたのは曉明てあつた。何心なく厠に行き、手を洗はうと思つて雨戸をあけると、思ひもよらぬ庭の眞中に、昨日の狐が端然として構へて居る。例のさかしげな眼で氏の顏を見あげ、さも嬉しげに耳を動かして居るのを見た時には氏も此の上逐ひ拂ふ勇氣は出なかつた。そこで家人とも相談の上、三吉と命名し、裏庭の森の中に小さな穴を掘り、狐の出入が出來るだけの入口を拵へ、そこに狐を飼つて置く事にした。それ以來といふものは、誠によく家人にも馴染み、日中は子供の玩弄物になつて、子守の役を勤めて居た。非番の時など、氏が綠端に出て「三吉、三吉」と呼ぶと、直ぐにも飛んで來て氏の足にまつわりつく、氏が歸宅の時刻ともなれば、乾度玄關わきに出迎へるといふ有樣であつた。

五

かくして一年は夢の間に過ぎた。

間もなく石原家では養鷄事業をはじめ裏庭の一部に大きな鷄舍をしつらへ、百餘羽の鷄を飼つた。晨を告ぐる鷄の聲で、曉方などは喧しい位であつた。

所が二ケ月許り經つた或夜の事、何者か鷄舍に入り込んだものと見え、七羽の鷄は其場に咬殺され、三羽は行衞不明となつた。是れではならんといふので、特に其の晩から番人を一人殖やしたが無効であつた。其の翌晩もまたやられた。翌翌晩は十三羽そつくり何者にか攫はれた

さあ石原家では大騷動だ。はじめは何でも野良犬かドラ猫——殊によつたら鼬の仕業だらうといふ評判であつたが、三日も四日も同じ事が續いたので、とうとう嫌疑は三吉狐の身の上にかゝつた。

平右衞門氏は斷じてそんな事はないと主張したが、外から入つて來た形跡がないといふので他の人が承知しない。そこで止むを得ず、狐を庭先に呼び出し、畜生とはいふ條、汝は恩を知る感心な奴だと思つて居たのに、さて〳〵見下げ果てた奴だ。今後二度とそういふ事があつたら、直ぐにも逐ひ出して了ふから、乾度心得たがよからうぞと、散々に叱りつけた。狐は默つて始終を聞いて居たが、やがて悄々として裏庭さして歩み去つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

印度土産　お伽講談

義烈の少女（二）

巖谷小波口演

しかるにこの邊はかの波羅門教の盛な土地で御座いまして、その御本山とも申すべき寺の近いところでありますから、その凝り方と申したら、實に甚しいもので御座います、從つてその僧侶の威勢と云ひましたら素ばらしいもので、御門跡の生佛のと云ふところでは御座いません。往昔の御領主同樣生殺與奪の權を持つてゐるやうな勢で御座います、それにこの宗旨では公然の妻帶主義で御座いますから、僧侶がその妻に撰ぶのは自分の勝手次第なので御座います。「アミナ」はその內に十六才となりましたが、美人の評判は遠近に聞へわたりました。するとその頃は御本山の住職とも云ふべき僧に「ユブラ、ヂング」と申す者が妻を失ひまして獨身てをりましたが、此者が何時か「アミナ」を見染まして、せつせと「アミナ」の家へ參りました。「アミナ」はもとよりその兩親でさへこの坊主に其樣野心があらうとは知りませんから、生佛樣がわざ〳〵宅へお出來になると云ふのでたゞもう非常に難有がつてをりました。「ユブラ、ヂング」も用の無いのにさうたび〳〵格を破つて出懸けるのを極りわるく思ひますから、そこは坊主の如才ないところで、お前の家には火難の相があるから祈禱をしてやらうとか、又は今年は年廻が惡いから災難を祓つてやらうとか云つて、そのたんびにいろ〳〵結構な土產物を澤山もつてまゐります。てある時「ユブラ、ヂング」は到當思ひも堪へかねまして「アミナ」の母親を寺へ呼びよせまして、いろ〳〵鄭重の御馳走をいたし、さて何うかお前の娘「アミナ」を妻に貰ひたひと申しました。母親も初のうちはよもやと思ひまして、いゝ加減な生返事を致してをりますと、「ユブラ、ヂング」の方は眞劍で御座いますから、實に何うも驚きました。と申しますのは娘「アミナ」は本年十六才の娘盛り、然るに花聟さんの「ユブラ」はもう七十二才で御座います。七十二才と申せば普通孫の五六人もあつて一寸お寺へお參りに出ますのも途中が危いからと、家に閉ぢ籠つて、日常の良い椽側に出てお念佛でも唱へてゐる年輩て御座います。それが孫のやうなものを妻に欲しいと云ふのですから、流石の母親も驚くのは無理ならぬことて御座います、何と答をしてよいやら分りませんから、まぢ〳〵して默つてをりますと、「ユブラ」は

「お母親、イヤ誠に何うも良い年齡をして、面目次第もないが、何うか一つ承知をして貰ひたい、その代りお禮は充分にするから」

傍にありました手箱から澤山のお金を取出しまして、切りに頼みますと、人間慾のないものはありません。况して心性の良くない女ですから、眼の前に列べられた金を見ますと、もう何もかも考へてゐるどころてはありません　ニコ〳〵と氣味の惡い笑を洩しまして、

「ホヽヽヽ、大さう御熱心なイヤ……誠に何うも難有いことて御座います。早速亭主にも相談いたしまして、御返事を致します。」

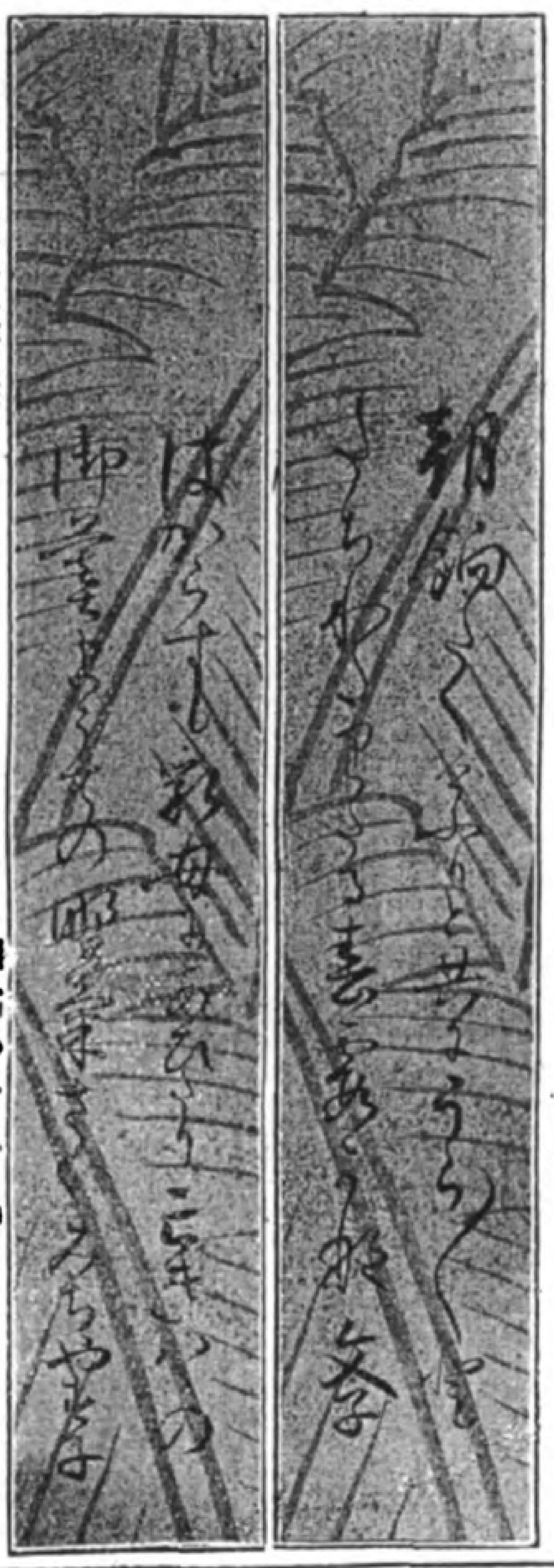
「イヽヤ相談してどころては困る。否やても應ても承知する、やうに骨折を頼むのぢや、勿論事が調つたなら、その節にはもつと充分お禮をするから」

「へイ〳〵宜しう御座います。私が承知いたしました。亭主が何と申しませうとも、娘が何と申しませうとも、必然私が差上げることに致しませう。その代り御褒美は……」

「ウム、それは念に及ばぬ、何うか何分頼む」

と到頭娘を賣物にする相談を決めて了ひました。家へ歸ると早速亭主にこの由を談しまして、生佛樣のお垢の水を甜めてさへ、病難災難を遁れると云ふ位てあるから、本人の身の爲め一家一門の爲め、是非とも「アミナ」を嫁入らした方が良いと勸めましたが、何分本人同士の年齡が餘り違ふからて、父親は流石血を分けただけに娘の心を思ひやつて聽入れませんてした。すると母親はもう慾に眼を眩ましてをりますから、これが調はなかつたなら大變だ、約束の褒美が貰へないと、それから自分の弟に同氣求める惡漢がありましたから、それに萬事を相談いたしますと、此奴は良い金儲にありついたと、二つ返事て贊成いたしまして「ユブラ、ヂング」のところへやつて參りまして、多くの運動費を取出して、親類中や近隣の有力家を說き廻つてそれ〳〵、買收して了ひました。そこてそれ等の連中が入れかわり立ちかわり、夜晝坐り込んで勸めるので、父親も遂に我を折つて、その意に從ひました。そこて「アミナ」にその由を申しますと、氣を失はんばかりに驚きましたが、親の言葉て御座いますし、萬一自分が不承知を云ふたなら、親の身に如何樣な災難が降りかゝらないとも知れんと思ひましたから、泣く〳〵其意に從ひました。それから數日の後、立派な支度が出來て「ユブラ」の寺へ嫁入りいたしましたが、もと〳〵自分の身を捨てたと、覺悟してまゐつたので御座いますから、面白いと思ふことは一日もありません、人の居らんところへ行つては、毎日泣いて暮してをりました、翌年父親は遽な病氣で死にました、さうなると「アミナ」はまるて世の中に便のない孤兒になつて了ひました、母親や親類の者共は胡魔摺に「ユブラ」のところへやつてまひりまして、「アミナ」は誠に結構て幸福者だなぞと申しますので、それを聞くたびに「アミナ」は身を切られるより强く思つてをりました。

續園秀百佳選

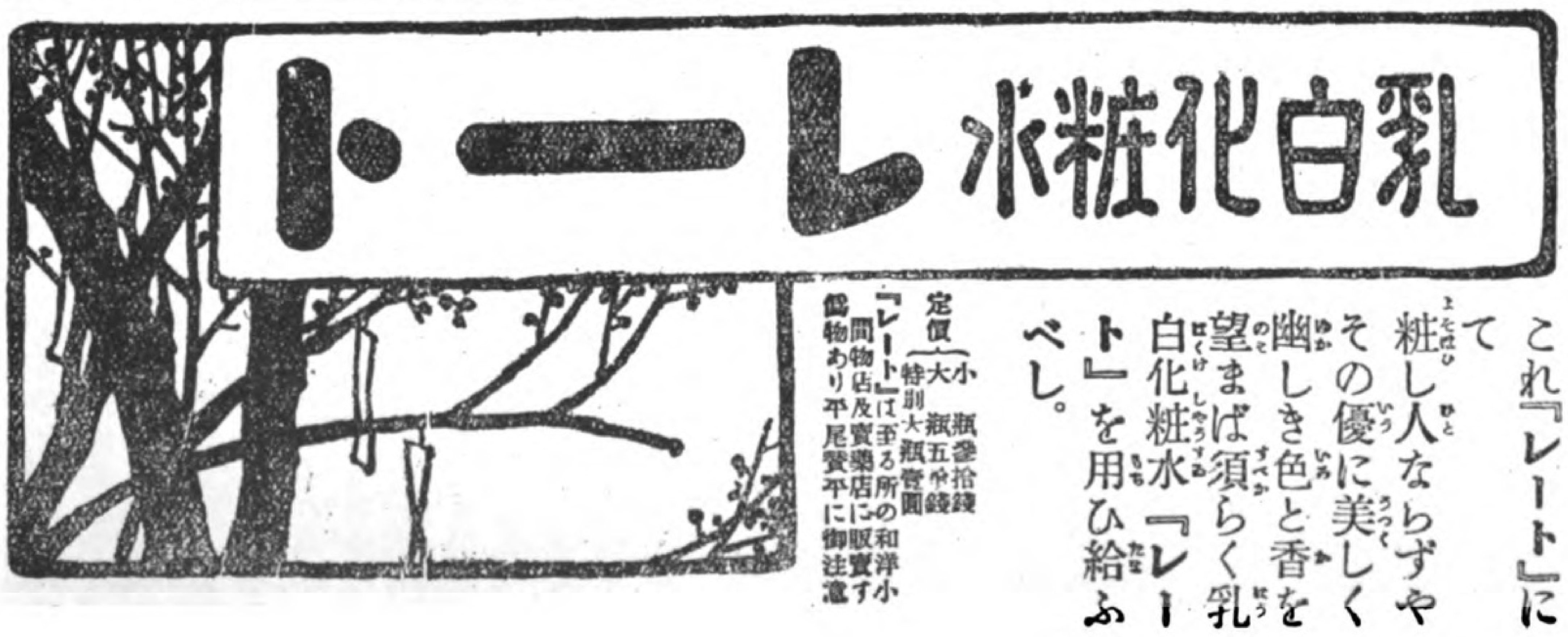


（其三）阪正臣大人筆　留目文子作

（其四）阪正臣大人筆　瀬高やす子作

圖書倶樂部

□俗曲評釋（江戶長唄）　佐々醒雪氏の著てあります。江戶長唄總說、三番叟、道成寺、草摺引、獅子、吉原雀、手習子、花車、賤機帶、勸進帳、安宅の松等が一々丁寧な評釋と共に載つて居り、殊に草摺引の各種、獅子と石橋の各種といふやうに各種の異本を對照してあるのは親切なことてあります。尙又本書の長唄本文は現に行はれて居る稽古本を土臺としてあるのですから何人にも直ぐ、それとうなづかれ面白く研究されやうと思ひます（六十錢、神田小川町一盛文會）



梅觀して
移り香したるか、
花にあやかりしか、
優に美くしき容貌、
幽しき香を放てる、
これ乳白化粧水
『レート』の賜ならずや、
香に迷ふにほひ鳥の
花か人かと迷へる、
これ『レート』にて
粧し人ならずや
その優に美しく
幽しき色と香を
望まば須らく乳
白化粧水『レー
ト』を用ひ給ふ
べし。

定價（小瓶參拾錢　大瓶五拾錢　特別大瓶壹圓）
『レート』は至る所の和洋小間物店及賣藥店に販賣す
僞物あり平尾贊平に御注意

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

實話

妾の見た繼母と繼子

平山訓子

△側の見る眼も羨しい

つい御近所に住ひ合した御一家、御子息と母君との二人暮してすが、薄々聞けばなさぬ仲だと云ふのに、其親子仲の美はしいこと睦じいこと。

近所合壁鼻突き合せて、お臺所に立つ松風の音も、梁を行く鼠の足音も、箸の上げ下しも私語聲も、一から十まで手に取る如く聞える仲の朝夕に、唯の一度も荒びた聲をせず、癇癪らしい物音を立てず、雨降りの折など、そゝけ髮で其儘雨傘輕々と母君學校迄も出迎へらるゝ子煩惱なれば、御子息はまた寄道一つせず、歸宅と其儘道具は三疊の書齋へ放り遣つて、夕仕度の水汲み外部掃除、それ濟せてからでなければ好きな勉強にも取かゝらぬといふ程の親孝行。

開闢以來仲惡しきものと定つた繼親子には、珍らしいと感心なこと。何時も美しい談話の端には此御一家が出る程であります。

て、一日茶會の後に居殘つた私は、ぶしつけながら、彼の母君に向つて、何んな秘密の鍵を握り給ふて彼のお麗はしさか、と切り込んでお訊ね致しますと、母君は、ホヽと優しい微笑を先に立てつゝ、此經驗といふのを參考の爲めなればとてきかせられました。

△最初の苦心

お訊ねて恥入りますが、他ならぬ貴女なれば打明けて笑つても頂きましよ。

私等だとて最初から斯うあつた譯ではなく、隨分苦味も辛味もなめました上、妙な心の持ち合せから斯う成つたものであります。

私が此家に嫁つたのは、丁度彼の子が三歳の時、まだやう〳〵ヨチ〳〵歩きの頃でしたが、母亡きあとは素姓賤しき褓姆の手に任せ切つてありました爲め、縱へも横へも延び放題。腕迫に妙なすね氣すら加つて、隨分困つたものでありました。又私も其頃は十代を漸と脱けたばかりの社會の中に何やら彼やら薩張闇くもに我身の始末さへなしかねた程であれば、人の親として親らしい子の世話などか出來た話ではなく、表面は兎も角繕つてゐても、心の中では始終いや〳〵と頭を振つたり、顔を皺めたり、或は人並ならぬ身の程を果敢んで見たりしたもので、只もう當座凌しの恥かしい暮らしをやつてゐたのでした。

それにまだ子供が幼稚い間はよいてすが、漸々もの心附ぐ頃にもなりますと、繼しい仲々は兎角はたから眼角を立てたがる世のならひて、ともすると大事出來のやうに親の方に來ては子の讒訴をする子の方に行つては親の惡所に附智慧をする、といふ人々が多いのでありますから放つておけば好くゆく筈の所も、其間には自然猜疑の邪推の黒雲が作られ、近寄らうと仕ても近寄られず、親しまうとしても親しまれず、是がもし血を分た眞實の我子ならばといふ感が親の胸に起れば是がもし眞實の生みの親ならばといふ思が子の心にも湧き、お互ひに氣まづい果ては、一家に風波の淺ましい姿を演じ出すといふのが落着、餘程超脱の人でない限りは、大方は此落着に嵌るもので、當局の私共から申しますと、誠に餘儀ない親も子も損な運り合せといふより外にはありません、

て、私共にも矢張此氣味が無いことはなく、根が心細い性の私は、是も親らしい眞心といふものが我身にないからのと何うしたら其親らしい心が出るか、彼の子が可愛くてたまらぬ如になるか、私の心に其しほらしい思が湧けば、自然彼の子の片意地もひねくれも直らうものなど左樣なことを例令良人なればとて打出し言ふ譯には行かねば、身一つに思ひ悶えて、隨分苦心を重ねました。併し能くよく考へに考へ脱いた上、私はさらりと妙な氣分を捉へ得たのであります、其後といふもの、其妙な氣分の持ち合せから、わだかまつた黒雲も追々と剝かれ行けば、互ひの氣まづさも次第に薄れ行き、其儘進めば今頃は迚も圓滿と斯うした嬉しい暮らし向は出來ぬ筈の處を、おかげで一掃除致したのであります。

△何も心の持方一つ

斯う申せばいやに勿體が着いて、何んな又妙法を授かつたかとお笑ひか知れませぬが、何も心の持方一つかと思ひます。

私し熟々思ひますに、私と彼の子は、今結ばつて親子の縁をなしたとは申せ、何うせなさぬ仲の親子元々を洗らへば血も分けねばあかの他人である、血をも分けぬあかの他人が、今親子の縁を爲したからと云ふて、眞實親らしい心を出せる譯でもなく、親としての僞らぬ行爲が出來やう筈もなく、思はうとしても爲さうとしても、心からは生へ出ぬ作りものゝ虚僞であつて、さう思へぬ、さう爲れぬといふ程が正直正音なれば、已に親らしい心は出ぬが、何故に彼の子が親程に可愛くなきか、親としてわれ知らず親らしい行爲は出來ぬかといふ處に無理がある、無理を其儘通さうとすると其處に又苦心がある、苦心があれば氣が冴えず、氣が冴えねば不快を蒔くといふことになる。

子の方にしても同じこと、眞實親でない者を親と思つて仕へやうと仕ても、われと我身がいつ迄もだまさるゝものでなければ、親と思つて心からは仕へられぬが眞實、それをば無理に親と思はう、親として仕へやうとするこそ、われと我身を僞らねばならず、又それをば無理と親として待つこそ、生みの親ならば彼の樣にも此の樣にもとなさぬ仲には無理な注文も要求も起つて來る。殊に今迄は眞實の親と計り思ふて居たのに、薄々きけば、眞實わが生みの親ではなく、後添の自分には繼しい仲なども知れしものなら、一寸した言葉端にも眞實の親ならばといふ氣が出て、其氣が出づれば其處へ早や一重の雲垣が生じて、存分親として親しまれねば、其間には又誤解が湧き易く、親の方から折角眞心の手を出しても、子の方からわざ〳〵逃げ廻る終極にもなる。

それよ世に繼しい仲が、多くは不和に陷つるのも正しく此處らの持合せが甘く嵌らぬからてある。とすると、双方無理がない所ですら〳〵と甘く溶け合して行く道はなきか、自然にもとらぬ人情の良き道はなきか、といふお互ひの胸の中を劃り出した有りの儘の所へふと氣が附いて參つたのであります。

すると又思は進んて、いや間違つてゐた、今迄の思ひなしが已に間違つてゐた其自然の人情にもとつて、無理になさぬ仲をなしたと思ふて、親とならう、子とならうと仕たのが誤てある、なさぬ仲は何うせなさぬ仲、親でなく子てない者は、何う僞つても親てなく子でもないのが眞實是からは其眞實の道を辿つて。

△親の方

の私からは、今后彼の子を眞實の我子とは思ふまい、何故に親らしい愛が出ぬかとは嘆くまい、何故に親として彼の子は我身に仕へぬかとの要求も起すまい、夫よりはもつと自然に、もつと氣易く、彼の子は元々私の腹を痛めた子ではない人の子である、人の子ではあるが縁あつて親と子と結ばつたものである。彼の子の母親は嘸草葉のかげから彼の子のとを思ふてあらう、生れて眞實の親の愛を得知らぬ彼の兒は、思へばさても可愛想な、私にとりては眞實の兒ではないが、愛する良人にとりては血を分けた大切な者、何氣ない顏を作らるゝ程良人の心には彼の子のとが氣もかゝらう、彼の兒も可愛想なれば生みの親も亦氣の毒、折角私は可愛想づくめの其仲らゐを調へやうために來た者なれば、眞實我身も可愛想なわけてれぞ、我身の心持一つでは彼の子の可愛想も生みの親の氣の毒も幾干かは取除らるゝ譯、大切な人の子をあづかつたと思うて、親でない我身乍ら及ぶ丈けの世話を燒かう、盛らるゝ限の涙も盛らうと斯樣な思ひへ行くとが出來ました。

さう致すと誠に妙なもの、私の心は前前とは打つて更つて何かなしに究屈でなく、ゆつくりと餘裕が出來、彼の子の腕白も惡戯も左程氣にならずして、あれも親がないからのとか、左樣思へば可憐らしい、といつたやうな思が先へ立つて、今迄なればお止しなさいと頭から叱るか嚴い眼て睨み据え乍らの見ぬ振か、何れ其外には出ぬ筈の處を、莞爾笑つて勝さん左樣するもんぢやあないよ、お母さんは何んなに心配か、若しかあなたが云ふとをきいて、好い人になり良いとに計り實を入れ、人からも世間からも賞めらるゝ如になれば、お父樣初め今は無いお母樣も草葉のかげから何んなにかお喜びてあらう、さうするとあなたをあづかつた私も、眞實申譯が立つて嬉しい程に、私は身も心も惜みはせぬ、此心が能く分つたら、云ふとを諾いて愼んで下さるのですよ、御褒美には何をあげよ、といつた風に心から優しく持ちかけてなだめるといふ程私の心持は出來上つて參りました

圖書俱樂部

□教育お伽噺　（博文館の家庭百科全書第十三編として標題の如きもの發刊されたり、著者は少年讀者お馴染の木村小舟氏にして、主として家庭及學校に於るお伽噺の材料に供せん爲にとて編述したるものゝ由、お伽噺の起原、種類、効用、教育的價値、非難及辯解教授の實例、教授の場合等の注意事項を懇切に縷述し加ふるに西洋の部及日本の部に分けたるお伽噺材及教訓的お伽噺等四十餘種を掲げたる有益の書籍　（定價四十五錢）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雜報

▽歌御會始　宮中に於ては去月十八日午前十時鳳凰の間に於て四十二年歌御會始の御式を行はせられたり當日天皇陛下には皇太子殿下を伴ひ給ひて出御あり皇后陛下は香川大夫を御使として列せしめ給へり同日霏々漫々たる滿城の雪恰かも勅題にふさはしかりしと云ふ　兩陛下の御製御歌は卷頭に掲げたるが故に此處には左に兩殿下の御歌及び選家のみを掲ぐることゝせり

雪中松

東宮御歌

ふりつもるかしらのゆきそあはれなるおいきのまつはひとならねとも

同妃御歌

いとゝしくふりつむゆきをちよふへきまつはものともおもはさるらむ

選歌

帝室林野管理局技師江崎政忠妻　まさ子上

きみかよのいくちよこめてつもるらむこまつかはらのけさのしらゆき

掌侍正五位　藤原遊子上

ふりつもるゆきにたわまぬまつをみておいもさむさをわすれけるかな

東京府士族　柴田元子上

たかむらはゆきにうもれておいまつのひともとたかくみゆるにはかな

鹿兒島縣士族　折田穰春上

まつかけはかへりてふかくつもりけりこすゑのゆきのしつれしつれて

新潟縣平民　外山且正上

とよとしのしるしのゆきのふりつむはまつもおもしとおもはさるらむ

長野縣平民　安部政太郎上

かくしつつちよのれさしやかたむらむゆきにうもるるのべのわかまつ

岡山縣平民　梶村平五郎上

わかみつなくむやつるへのさをふれてかたえしつるゝまつのしらゆき

▽古今名婦譚　虚榮心に驅らるゝ婦、卑しき情に驅るゝ婦、よからぬ心得の婦いと多き世にも、名婦として世にうたはるゝほどの婦人もいかてなからめや。現に次の項に掲ぐる如き殊稱なるもあり。されば、本誌は世の風敎の一端、愛讀姉妹かたの心慰さにもと、次號より新たに「古今名婦譚」の一欄を設け、毎號陸讀、趣味深き挿書と共に掲ぐべく、その一には「かたみの小袖」その二としてはまた「二人妻」あり。前なるは鎌倉時代の名婦後なるは遠き越路の物語、いづれも一ふしの味あらん。これをはじめとして、つぎ〳〵に掲げ行く物語はいかに。希はくは此物語に愛讀を給へ。

▽一身を犧牲とせる横濱の貞婦　世は既に末世に赴けるが如き不心得の婦人續々として現はるゝがうたてき今の世に斯る世にも有難き貞婦の折々は在るぞ心強き横濱在は程ヶ谷町に加藤キン（四十）と云へるがあり今より十一年前鎌倉町より程ヶ谷なる加藤貞九郎と云へるに嫁入りして呉服太物類を商ひ夫婦の仲に吉太郎（十）、ハツ（五）の二人を擧げ何不自由なく暮せるが春も過ぎて初夏に入る頃長男吉太郎不圖せし病にて死せしかば子煩惱の夫婦悲嘆遣る方なく心も亂れ氣も狂はんばかりに悲しみ家業も疎かになりしより家運漸く傾き始め營業さへ出來ぬ始末となりければ貞九郎は業を廢め行商人となり朝未明より起出て夜は遲く立歸り一生懸命稼業を勵むにぞ一家も稍や賑はしくなり之れなれば再び元の營業も開かれんと時期の來るを待つ甲斐もなく貞九郎は舊臘廿七日夜八時頃歸宅を急ぐの餘り荷物を背負つたまゝ小石に蹴き左足の關節を太か打ちしが源にて發熱激しくドッと床につきしにぞキンは醫師よ藥よと痛い處へ手の届く程手當を施せと貞九郎は心臟病を併發して效養更に無くキンも一旦は茫然として歎くのみなりしが斯ては一家が飢えるの他なしと心を取直し神佛に縋り私が一身を犧牲にしても良人の病を治さては置かじと野毛山不動に水垢離を取り此頃の嚴寒に毎夜草木も眠る丑滿頃風雪をも厭はず一心不亂に祈り居れりとぞ、さりとては美しく物語ならずや。

齒の白くなる植物性のオペラハミガキ發明せられ大々的好評なり

東京　平尾分店
スミレ香水

▽東西好一對　愛讀諸氏も御存知のことゝ思ひますが過ぎし歷史上の人物織田信長、豐臣秀吉、德川家康の三人の氣質をありのまゝに現はした斯う云ふお話があります。勿論作話とは思ひますが、同じ杜鵑を詠ずると致しても織田信長ならば「鳴かぬなら殺して仕舞へ杜鵑」、秀吉ならば「鳴かぬなら鳴かして見せう杜鵑」家康ならば「鳴かぬなら鳴くまで待たう杜鵑」と斯う詠むであらうと。これは名高い話であつて、三名將の氣質を明かに現はして居ります。これと同じやうに米、英、佛、獨、四國の人の氣象を現はして居る佳話として杉村楚人冠氏が其紀行の裡に述べてあるお話が御坐います。それは斯う云ふので——出された珈琲の中に蠅が一疋入つてるとする。亞米利加人ならば眼を瞋らせて給仕を叱り飛す。英吉利人ならば小聲で給仕に注意して人知れず取り代へさせる。佛蘭西人ならば可愛想可愛想とか何とか言ひながら匙で蠅を掬ひ上げてやつて置いて其儘飲み干す。獨逸人に至つては蠅も何も其儘ごちや〳〵に匙で掻き回してぐつと飲んで仕舞ふ——と斯う云ふのであります、獨逸人には少々氣の毒な感が無いでもありませんが、四ヶ國の國人の氣質が自ら此裡に活躍して居る處に頗ぶる面白い處があると思ひまして此處に揭げました。

▽服部博士の支那土産　北京師範學堂に教習として去卅五年渡清、以來滿七ヶ年間敎鞭を執り居たる服部文學博士は去年末歸朝せるが同博士の支那土産譚に面白き節あれば此處に揭げんに支那に初めて行くものが第一に困難を感ずるは貸家と北京名物の大風にして元來支那には我國の如く貸家を營業とするものなく諸外國人の北京に住むものは大抵支那人の住宅を借り受け居れるが其貸家の多くは破損し用に立たざるものか或は家族に増減ありし結果他に移轉して其跡を貸家とする爲め到底己れの心に合へる家など借りること能はず加ふるに彼等の間には不思議の迷信あり即ち前住居者は立退く際必ず障子天井壁等の紙は一枚も殘らず剝す爲め次に入るものは再び新しく之れを張らざるべからず之れが爲め新たに借受け一通りの修繕をなして何うにか住るゝやうにするまでには少くも三四百圓より五六百圓の費用を要するとぞ。

▽書道講習會　麴町區飯田町國學院大學にては今般次の規定により、書道講習會を開設し、男女に拘らず入會を許すと、講習時間は毎日曜日午前八時半より仝十一時半迄とし、二月七日より五月卅日に至る、講師は坂正臣氏實習を擔當、金田菊三郎氏次の要目により講話をなす。

第一書道　一文字の種類、二實用文字と美術文字、三書道の過去現在及將來、四書道と修養。

第二實習　一練習の必要及その趣味二、模倣と創作　三實習の方法

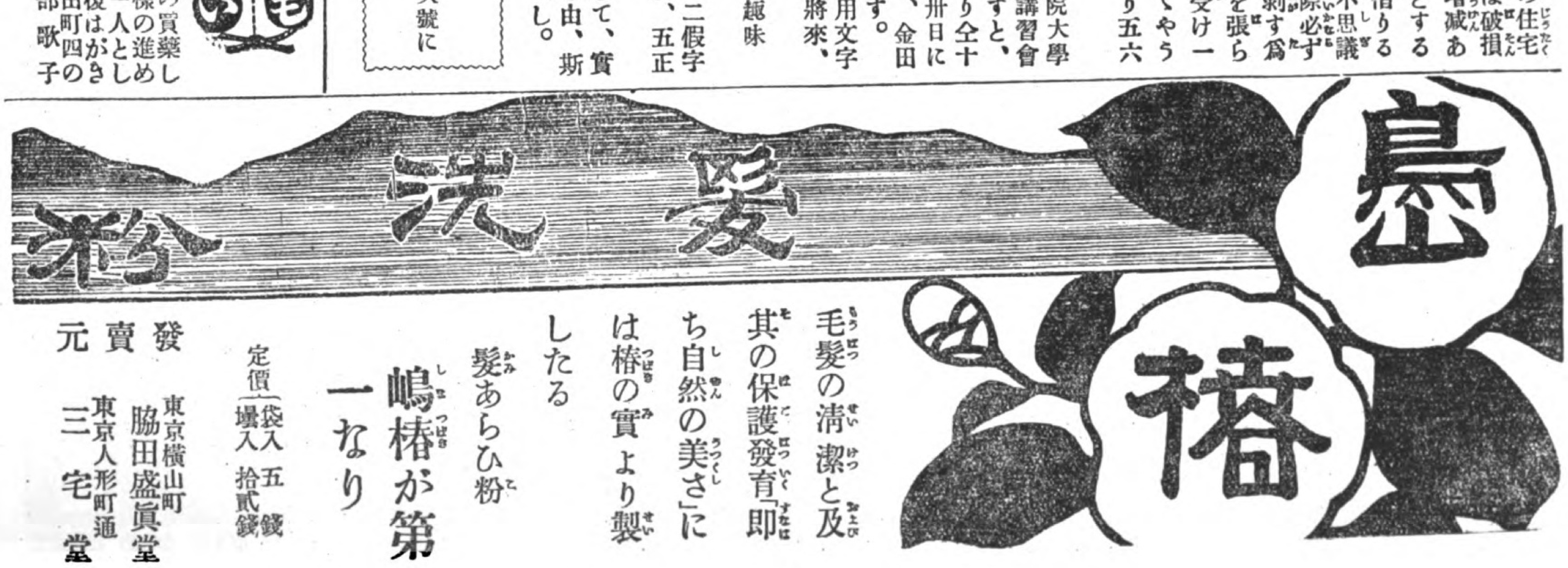
第三雜　一假字を書く心得、二假字の美點、三呼吸と墨つぎ、四流義、五正と美との區別、六古法帖

因に記す講習料は月額金壹圓にして、實習には坂講師書「日月帖」を使用の由、斯道不振の際眞摯なる企てと云ふべし。

社告

本號俳句欄は撰者の都合にて次號に廻すこととせり。

ちゝれもくせも
もはへうけあい
二大奇法
妾の手がけた方で此病にて諸種の買藥して癒えぬ人悉く治りし故夫て皆樣の進めにより世間に廣く御披露せし處一人として御喜び遊さぬ方なし御問合往復はがきにて
女髮結師　東京麴町區飯田町四の十六　安部歌子



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新體詩

二等

をとめ心　函館　前田武子

ながくもがなと思ひけるかな
と讀み手が詠んだとき
次の間で姉さんの兒が泣き出した
姉さんは急に立つて次の間に往つた
その刹那――私の胸に
家庭に囚はれた人――といふ
寂しい想がひらめいた
いやだおゝいやだ
いつまでもこのまゝに居たい。

評　形體は兎に角無難なり、たゞ止めの句多きに過ぐるは聊か耳障ならずや。

三等

今朝の春　東京　佐野くに子

紫匂ふあけぼのゝ光のどけき
磯の春漁村十里のうす靄に
鹽燒く海人の影もなく
おのづからなる松風のしらべ
しづかに聞く人もその靄がくれ
ちらちほら疎れに見ゆる今朝の春かな。

評　ゆかしき調べなり。筆も上達せり。

秀逸

〇　京都　露緒子

人の世のはてしも知らぬ千萬の
願ごとのうち、寒さと餓えと
うからはらから相せめぐと
遠き近き相悄むと、この四つは
今免れぬ、我此上に何願ふべき
天の災、地の變、その自然のまゝに
我何を求むべき、あはれ
天よ地よ、永遠の榮は汝にこそ、

評　素養の程もほの見えていと床し。

〇霞　横濱　鈴木まつ子

八十島かけてこぐ舟も　いかにのどけき今日の日や
いそ山松にうらうらと　かゝるかすみもなつかしく

評　も一息勉め給ふべし。

〇少女　青森　馬場ちよ子

あゝ少女、少女　愛らしき清き
汝は何處に生れしや　ロッキーの鶯鳴きつかれ
里の流れはあゝ響の音か春の夕月靜かに野末に昇る
その國か、はた夏野の黄昏草茂り、微風吹く海邊か
湖のほとりの一つ家　秋の夕暮の鐘をきく
煙しめやかにのぼる　あゝ一つ家か
愛らしき清き少女　いづこに生れしや

評　結句少しく見劣りす。

〇冬夜　廣島　金原なを子

音する方や何方と　針の手止めて窺へば
軒うつ霰サラサラと　身にしみ渡る夕かな
止めし針の手今更に　覺束なくも縫ひ行けば
隙洩る風に眠や覺めし　切りに咽ぶ母の聲
情に溫るむ藥なば　やせ衰へし手に取りて
ああ我夫の世にあらば　袖に重たき涙かな

評　おとなしき作と云ふべし。

〇新年　奨作　八木清子

しきしまのやまとの國に　新玉の年たちかへる
初日の出長閑けき光り　空にみち示とせを祝ふ
松竹のみどり一しほ　色まして旭に匂ふ
戸毎の旗ぞ新らしき。

評　新年と云ふ題が題なれば、新しき事を歌ふには、仲々骨の折れるものなり。

社告

▽次の新體詩課題は左の如し△

△雛　祭▽

▽一行十八字限七行以内△
▽締切二月廿日發表三月五日△

本月の九星

△二月中の吉凶　例者　西童子

一白の人　此月初旬の間は營業繁昌、中旬は事故多けれども凡て大吉にして利益あり、應接談判凡て手強くなすべし、下旬は散財あり、目上の人との爭論は凶也。

二黒の人　初旬は一月下旬同様也、中旬は不如意の件多し只管專業を守り時運の到來を待つべし。

三碧の人　初旬は凶也盜難用心の事、中旬は吉也、凡て此月は吉凶混交なり世話事多き月なれば散財あり

四緑の人　初旬は何事にも用心肝要の事、凡て此月は萬事に成就を急ぐ時は破綻あり、忍耐を旨とすべし。

五黄の人　初旬は口舌爭論の恐あり、中旬は一月よりは吉也、されど一獲巨利を得んとするは惡し、萬事に消極的なれば、凶も變じて吉となるべし。

六白の人　初旬は凶何事も愼むべし、中旬は吉にして目的を遂す、上下の和合、媒妁等注意すべし。

七赤の人　初旬は凡て苦情多し。中旬は新規の件も利益あり萬事好都合、下旬は物事破れざるやう愼重にすべし凡て本月は行違の恐なきやう注意肝要なり。

八白の人　初旬は散財あり中旬は本命中宮の月にて過失多ければ注意すべし、下旬は盜難病患を注意すべし。

九紫の人　初旬は萬事不如意ならんも下旬は吉にして都合よし目上を注意せよ、輕患あらんも恐るゝに足らず。

特許登錄　衞生婦人サルマタ

釦の懸け外しにてハキながら帶シゴキに障りなく兩便するを得且つ腰廻りを溫め又常に月經帶を代用す
冬物裏毛メリヤス製郵税共金四拾錢
發賣元　東京本所區外手町三　丸住商會販賣部

シモンクレーム

Crème Simon

川上貞奴孃十數年來常用の美顏化粧料（佛國巴里シモン會社製）

「シモンクレーム」は何故に斯く長くマダム貞奴嬢は此クレーム並に粉白粉（ライスパウダー）黄色、肉色（白色・淡鴇色）等の化粧料を日常愛用せられつゝあるか……それは「シモン、クレーム」は一種の强壯劑として皮膚を柔かくする窮劑及化學上數種の稀なる美顏料劑とを配合し十年來の實驗と緻密なる注意と監督の下に精製せられたるものでありまして世界上に比類なき無上の良品であるからであります

「シモン、クレーム」は皮膚を白くし且つ滑かにして表面がすべすべとなり又天鵞絨の如く艶麗ならしめ快よき香氣を發します毎日お化粧の時に御使用になれば何時迄もつやつやしき容貌を保たれます
シモン、クレーム」はヒビ、アレ、日ニヤケ、汗モ、ニキビ、唇のワレ、霜ヤケ、又髯剃の後やお小供衆に塗抹ますとすべすべとして大變氣持ちがよく又美しくなります
東京大阪三越呉服店は本品を世界最上化粧料として今や盛んに推擧しつゝあり
各地洋品店、化粧品店にあります
日本代理店　横濱七十番　エー、ハイム商會
關西特約一手販賣　大阪市安土町四丁目　河井商店化粧品部
「シモン、クレーム」「粉白粉」「石鹸」共特ニ登錄商標を確めの上御購求を願ひます

登錄商標

腰巻附婦人股引

東京勸業博覽會賞牌受領
腰巻兼用の御婦人股引で其の履き方は上圖の如く合せ目を前にして御結びになるので溫く履き心地も體裁もよく決して腰冷等の憂ひなく冬季防寒實用上是れに上越すものはなし
定價中長壹圓五錢大長壹圓十五錢色白、赤、桃色、鼠、送費内地二足迄八錢五足迄以上當店持
ねびゑ　しら　製造發賣元　東京日本橋區ふきや町十番地（電話浪花二三〇四八番）　佃屋シャツ店　ツクダヤシャツ店
特約販賣元　東京京橋區南傳馬町貳角（電本局一八二六）横濱市伊勢佐木町壹　岡田屋商店

金銀盃類

貴金屬寶石美術品袋物一切何品に依らず迅速と廉價を旨とし誠實に新調又は改作の御用相勤め可申候間何卒一層の御引立を以て多少に不拘御下命被下度奉願上候
宮内省御用達　玉寶堂　電話下谷（特九六五番・一二四四番）

▲宇治茶直接小賣▼
拙家製品ノ眞價ニ就テハ世已ニ定論アリ左記手續ニヨリ注文ヲ乞フ

販賣手續

（一）無料ニテ注文シ送金ノ出來ル便法ハ御便利ノ郵便局ニテ振替貯金拂込用紙ト云ノヲ受ラレ拙家ノ住所及ビ口座番號一〇〇四番等ヲ記シ裏面ニ御入用ノ茶名斤數其他ノ用事ヲ記入シ代金ヲ添ヘ差出サルレバ該金員等ハ直チニ拙家ヘ屆キマス故ニ早速物品ヲ郵送シマス至極安全ニ便利デアリマス此ノ用紙ハ拙家ヘ御申越アレバ何枚ニテモ送リマス
（二）品物ト代金ト引替ニテハ送品シマス故ニ御入用ノ茶名斤數ヲはがきニテ御申越アレバ直チニ代金引替小包郵便テ送リマス
（三）送費無料代價一圓以上御注文アレバ小包料ハ拙家ニテ自辨ス臺灣及滿韓ト樺太ハ小包一個ニ付キ二十錢申受ク

經濟ヲ重ゼラルヽ婦人ハ一讀アレ

▲宇治茶製造元小包販賣ノ元祖　山城綴喜郡草内村　振替貯金口座番號　東京壹〇〇四番　大阪貳〇五五番　七碗堂　古川專太郎

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

短文

一等

小ぐるま　京都　露緒子

お妙様こそ床しの御人春雨細き或宵に烏丸の糸屋で傘の更りしが御縁の始、それよりは糸竹に歌謡われに似玉ふ御心嬉しう花の嵐山に紅葉の高尾に袖連れし日もありしを今は五年の昔語にて相見し人も大方行方しれずなりぬ、今年四條の初賣に何心なく見ありきし折柄織の音にふと見上ぐれば、お小袖頭布を洩れし面差、夜目にもそれよと驚く間に撃は轟々の音に消され廻り行く小車、早東西に引別れぬ。

評　本誌文壇毎號殆ど作者の獨占に歸す、盛なりと云ふべし。

二等

うらみ　佐賀　小林鑑子

踊君嫁君さし並びての美しさ、實に比ひなき御夏緣よとまだ飲まぬ祝ひの酒をあてに、李兵衛太郎作までも喜び廻つてゐる。あゝ今け亡き兄君を病めりとすてゝ去つたその人が笑み美しく他へ嫁ぐ日の事である、思ひやる人もなき母とわれとは、新しい位牌の前に人の心の恨みかひなきを語つて泣いて居る。

評　暗黒なる社會の裏面には如此事實も日々繰返されつゝあらん。

秀逸

賤の女　東京　佐野くに子

色香あらそひし楓の風情も、夢とはかなくうつろひ去りて、うらされび行くみやま路の枯木がくれ、薪を背に夕日をあびて賤の女の家路をたどるが、そのやさしき消き美しき心に、かゝる山茶花手折り飾れたるもゆかしきよ。

評　頽敵の勢を惜み給ひしと覺しく、日頃とは見劣せらるゝ筆つきなり、勉め給はずや。

仲よい同志　東京　市村たか子

「文さん今日は」「みやよくいらしつたわね今丁度かるたがはじまつた處よ」「そう、ちよつとごらんなさいよ、あのこはれたしのびかへしに雪がつもつた處は詩的だわね、さすがは女詩人文子史の御住居ね、」「おほゝ願さんずゐぶんお口が達者ね、誰に仕込まれなすつたの」「そこらにいらつしやるはいからなお嬢様にしこまれたのよ」「あらずいぶんひどいわ」「まあお前たちは何をそんなに云ひあつてるの、皆さんがまつていらつしやるじやないかねえ」

評　交情羨むべし、何れもおきやんの面目を發揮せり。いざ歌留多となつての嚴々しさ思ひやらる。

折にふれて　横濱　鈴木まつ子

太陽がいま昇るのでせう東のそらは赤くなつてきました淋しい雲のあいだからはら／＼と時雨がふつてきました私は一心に朝のおそうじをして居りましたが、ふと北のそらをみて、おもはず落した涙をもし人にとはれたら何と答へませう

評　かよはき女心のほの見えて床しき書ぶりなり。

ある夜　岡山　八木清子

月の光にあくがれて寒き霜夜に只一人市街をさまよふた、向へ小按摩が行く、かなたには病む母をもつにも似たる少女の辻占賣が聲もあはれに流し行く、夜も大分更けたらしい、向ふの三階から艶かしい三味の音がきこえる。

秋の朝　青森　馬場ちよ子

山里の霧は晴れた、垣根の朝顔はしたゝる計り美しく咲いて居る、せまいけれど遠くまで見ゆる庭を散歩して居ると、お隣りの君ちやんが出て來た、そこいらを歩いて居たが、「姉さんよく咲きましたねえ」と朝顔の花を見つめて居る。向ふの丘にはまだ霧がかゝつて居る。

寒念佛　青森　竹林秋子

降つて居た雪が五寸程つもつた

裏山にふくろのざくや冬の月――つまらない。

今夜は珍らしく星が澤山出て居る、

角に消え横町に聲す寒念佛。

夢　岡山　坂田元子

今日はお正月で竹子さんの宅でかるた會がある。行くと取れない筈の私がドシ／＼取れる、「なげけとて……かる」私が取らうとすると清ちやんも手を出したので、かるたが二つに割けてしまつた、と目がさめた。あんなにうまく取れたら面目いだらうと思つた。

若水　大分　桂木靜子

今朝は目出度吉例を祝はんと例より早めに五時を合圖に床を出た、昨日結立の丸髷に塵をつけては甕なしと白手拭を冠り、手桶片手に井戸端に行く。まだ夜は明けきらないが、やがては彼方の空から薔色の霞もろともに四十二年の目出度日の御紳が出るかと思ふと、胸に希望の光がみち／＼と何とも云へぬ心地がする。

注意

毎度云ふ事乍ら、匿名にて投稿さるゝ者は沒書とする筈に付以後は注意せられたし

紹介

上野の第二博品館　日本一の勧工場は上野の博品館で、大きい事も日本一、四階まで梯子段を昇らずに行ると云ふ建築法も日本一、床屋もあれば西洋料理もある、汁粉屋もあれば便所も澤山ある、休憩所も寫眞屋もある、隨つて館内に足を入るゝ者は、金さへあれば何でも買へる便利調法此上もなし盡し凡ての點に於て日本一の勧工場なるべく、品物も吟味して確實を期する由なり。

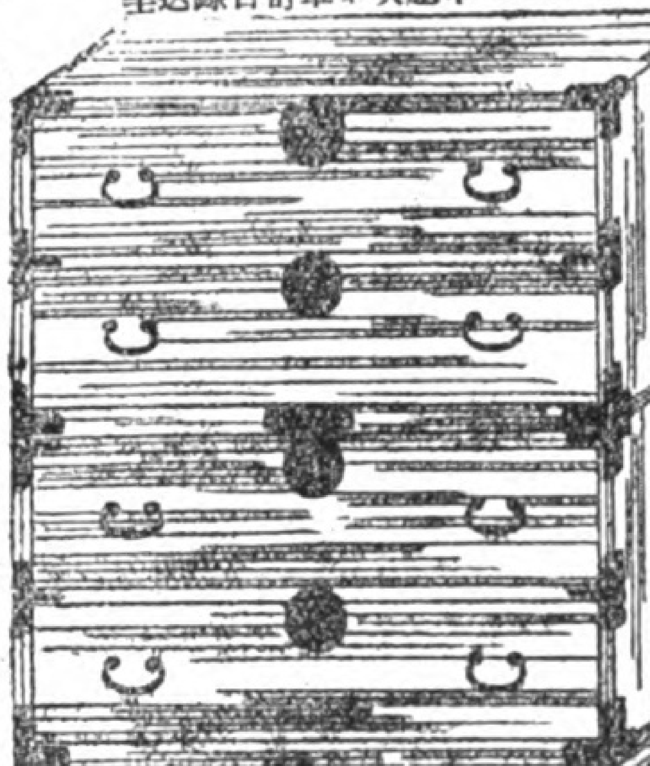
小兒科專門
小兒喘息、百日咳、
腺病質、胎毒、貧血症、
胃腸病（腸滿、脾疳）
小兒皮膚病
ドクトル メヂチーネ 長井岩雄
東京日本橋數寄屋町（呉服橋外）電本百八十

冬物出揃
羽蒲團膝掛
ボアーマフ
御婦人小兒用帽子色々
手袋靴下類
リボン造花
西洋小間物
牛込神樂坂下
朝日堂
電番一六九九

流行ブローチ

1拾八金眞珠入金四拾五圓
2拾八金拾圓より赤銅製壹圓より
4拾八金
3拾八金わらびの圖九圓より
金拾四圓より
5拾八金眞珠入金拾貳圓
より
●送料内地は拾貳錢臺灣及清韓樺太は各三拾錢申受候●爲替は日本橋大傳馬町郵便受所宛願上候
右の外御好みに應じ確實を旨とし賭品共廉價調製可仕候間陸續御用命奉希上候
美術貴金屬細工袋物商
東京日本橋大傳馬町通り
(治)
澤田治助
長電話浪花二三五六九番
振替口座一二三七三番

郵券二錢封入御申越次第箪笥目錄送呈
高等箪笥長持類
御婚禮用には丁寧調進仕候



蟲害豫防實施
日本橋區小傳馬町一、（電浪花一四三五番）
長島屋 長谷川箪笥店

髪洗ひ

あらい粉

規則 郵券二錢進呈
▲最教育的簡明平易にして實益的なり
▲女子大學家政科標準修了僅に二ヶ年
▲毎月二回發行會費低廉家庭好侶伴也
▲修了證書併に試驗の上卒業證送與す
▲會員質問懇切解答、修了會友大に優待
▲機關婦人雜誌「家庭」會員無代會友半額
▲日本女子大學入學金免除其他便宜多
▲今般入會者五千人限入會金を全免す。
新學期四月始

女子大學講義
▲會費 全部二ヶ年にて都會遊學一ヶ月費に不滿

會員募集
講師 東京帝國大學教授早稻田大學講師及日本女子大學教授 諸氏
日本女子大學校 櫻楓會内女子大學通信教育會 編輯
發行兼申込所 東京小石川區久堅町百八 精美堂
電話番町九三二番
振替口座二八三八番

資本金壹千七百五拾萬圓
營業科目
一擔保附社債に關する信託業務
一有價證券其他貴重品等の保護預
一有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一地方債、社債、株式等の發行募集事務
一各種の信託事務
一國債證券、地方債證券、社債券、株券の擔保貸付及手形の割引
一國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一法律規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一定期預金、特別當座預金
日本興業銀行
東京市麴町區錢瓶町（常磐橋内）
電話本局 一、二八〇〇番 三、三〇〇番 四一〇番 三七一番 （特）一〇二番

東洋內科醫院
院長 醫學士 高田畊安
東京神田區駿河臺鈴木町二（御茶水橋畔）
電本八八八（病院用）八九八（私宅用）
院長診察月水金木前 松田醫學士診察火土前 鶴者施診火木前 入院診斷隨時應需 松田林兩副長は目下當院に在勤

南湖院
神奈川縣高座郡茅ケ崎村南（停車場所在）
河野副長は目下當院に在勤院長診察土曜日午後○同時鶴者施診副長診察月、火、水、木、金、土、午前

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

和歌

佐々木信綱選評

天　京都　露　緒子

七色の絹糸たれて御手まりかゝりまゐらす紅梅のまど

手まりもうつくし、紅梅もうつくし、歌もまたうつくし

地　三河　蟹江とよ子

ふるさとに老います母や如何ならん遠山白く雪は見えけり

遠くとつぎこし女心あはれ深し

人　京橋　飯塚きよ子

雲ふかきこしのあたりにすむ君をおもひこそやれけさの寒さに

いひざまあまりに平淡に過ぎたれど女の歌としてやさしき心みえてよろし

秀逸

すみれさく庭の春風心せよ日かげの花に蝶ぞむれれる　金澤　森　まさを

しほかせは身にしみぬれとおもしろくゆきふりつもるいそのまつ原　横濱　鈴木まつ子

新玉の年の初めの神詣こゝろきよめて雪そふりける　長門　鶴田貞子

うなゐらか落つる實拾ふ椎の木のこずゑあらはにふく嵐かな　東京　林　きく子

おく露にうつろふ菊の垣こえておちほひろへり里の庭とり　堺市　金田つるえ

春風に小川の氷とけそめて里の少女等根芹つむなり　大分　桂木靜子

門松に雪のしらゆふかけてけり神代のまゝの年やたつらん　山口　末田竹子

梅さけば故郷こひし椽近う衣ときおはす母も見えきて　岩代　長谷川よしの

甲

何となく心のとけく思ふかなかすまぬそらも春めきて見ゆ　美作　八木清子

打たえし學びの友の文をえてたのしかりける昔をぞ戀ふ　靜岡　齋田とめ子

一人のみ眺めんはをし初咲きの梅一枝を君に送らん　岡山　清水梅子

ところどころ小松ましれる柳原なかれもみえてかすむ春かな　福島　鶯田よしの

乙

かど毎に松かざりしてにぎはしくことほきかはすけふそうれしき　東京　山本富子

しるしばかりつみてけるかな去年の雪また消えやらぬ野邊の七くさ　山口　末田貞節子

梅の花ちりてうかへる泉水にかすみて匂ふ春の夜の月　岡山　西村長子

古郷の母が手縫ひし新衣の身に温かし今朝の霜にも　横濱　上杉らく

おもふどち埋火かこみかたるよはさながら春の心地こそすれ　岡山　山崎露子

暮れてゆく年はわか身に積れども花にたのしき春もまたれつ　大分　田上紅陽

山松をはなれし月の影きよみ横ぎるかりの數も見えけり　大分　田中靜雄

冬木立月も氷りて猿の遠音も聞きぬ山こしの家　京都　加藤くれなゐ

かりはてし山田の田面あきたけてのこるかゝしにしぐれふるなり　北海道　五十嵐やす子

梅の花つぼみのほとに鶯のさへづる聲に一つひらけぬ　岡山　阪田元子

かけ高き大内山の松が枝を埋むばかりにつもる雪哉　青森　大橋やさ子

松原にふりつもりたる大雪ののぼる初日にとけはじめけり　東京　中山由子

よひのまの嵐や雪になりにけん笹の葉すべる音のつめたき　山城　古川よね子

ふる雪にときわの色の埋もれて操のみこそあらはれにけれ　同上　同　人

雪ふるとみし夜の眠り安からで子らが學びのかよひ路ぞおもふ　福島　小川しん

たらちねの母かたまひしわたいれのあつき情に寒さ忘るゝ　伊勢　日野千鶴子

遠山に雪見えそめしあしたよりみにしむがこと風のさびしさ　岐阜　小島駒子

松が枝のつもれるゆきにうづもれて初音きこゆる今朝の鶯　東京　三宅ひさ

こからしの音はのきはにをさまりてしつかにつもる松の上のゆき　青森　笹田正野子

古郷の鎭守の宮に來て見れば茅屋並びに雪ふりつもる　青森　竹林秋子

つれづれに想もなくて眺むれば吹雪にくるゝ川沿の村　函館　前田武子

新しきクラブ洗粉の原料は昔に優る數種の特色を加へたり

然も寒き此の時に方り最も良く洗粉の特色を有するものは唯だクラブ洗粉の一品在るのみ

斯く盛んに流行せる然かも此の時に方り又々改良したる新らしきクラブ洗粉の原料は昔に優さる數種の特色を新たに加へたり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

本品は畏れ多くも
常宮殿下
周宮殿下
富美宮殿下
泰宮殿下
御使用品
高等香油
チエリーオイル
紳士貴婦人令孃用

千九百七年於巴里流行
乳狀薄化粧料
フエスクリーム

珍ら敷新輸入品
最も日本婦人に適し皮膚の營養滑澤に實効ある
佛蘭西新式煉白粉代用品
本品は顔を洗ひ乾きたる後少量を萬遍なくぬり摩擦すれば實に得も云へぬなめらかによきつやを出し香氣よくあれを防ぎ白粉やけ皺のよる憂なし又ゑりの汚れることなき嶄新良好なる薄化粧料として紳士貴婦人間に高評あり
定價一瓶三十五錢全國到る所の賣藥小間物化粧品店にあり
東京市日本橋區本町二丁目
チエリーオイル本舗
發賣元　高橋初次郎
振替貯金口座一〇九三二番
電話長本局四一一三番

THE GEM
ゼム
衛生家必携　懐中良藥
愛國
理想の婦人
深き母、常に快活なる氣を以て子を育する母の爲身を愛し、家の事を執るに明敏なる婦人
家庭にあり又交際場裡にありて常に清涼快活ならんには「ゼム」を服用せらるべし
◎主効
○頭痛○眩暈○氣鬱○舟車酔○時候傷○水傷○食傷◎消化不良○口熱○口中惡臭○其他常用すれば氣分を爽快にし音聲を美にし諸種惡疫を豫防す。
定價　七十五粒入十錢　百六十粒入廿錢　四百卅粒五十錢　九百粒入壹圓　容器入廿錢
東京馬喰町二丁目　愛國堂山崎榮三郎
大阪高麗橋二丁目　山崎兄弟商會

めりんす友染
古渡り唐ざん
其外おゝだなや式格安物
東京日本橋人形町通り
赤のれん
おゝだなや本店
電話浪花四三四五

東京裁縫女學校長渡邊辰五郎先生遺稿

高等裁縫講義

菊判五百五十頁
○定價金壹圓貳拾錢
豫約特價金七十錢
○郵送料東京市内四錢其他は八錢

○豫約申込は通知のみにて代金は書物出來の時にても差支なし○豫約申込者壹千人に滿つるを待ちて出版に着手すると○申込み豫定に越ゆる時は更に豫約特價を引下ぐべし

謹みて親愛なる讀者諸君に申上候今般御發布あらせられ候戊申詔勅の御趣旨を體し業を勵み儉約を守らんとするは自ら家事萬端を齊ふべき素養を修むる事最も肝要と存候例へば裁縫割烹の如き之を他に托するの不經濟は申す迄も候はず就ては此度家事の上に實用となるべき良書を選び順次に發行し出來得る限りの廉價を以て婦人方に配布せんことを思立ち其一着手として「高等裁縫講義」を豫約出版致すべく候何卒微意を諒とせられ知人方へも紹介せられ陸續御申込あらんことを切に希望致候

此書は日本裁縫界の泰斗故渡邊先生が十數年間大日本女學會の爲いと懇に講義されしもの丶中より粋を拔きて各家庭に必須なるものを集めし者にて「書物に依て實地に裁縫の出來るは先生の講義の外に無し」とは夙に世の定評ある所に候其要目は

○袴（男子用、大人物十種子供物八種、女子用、大人物九種子供物三種）○女小袖○本比翼、附比翼○單衣本襲、半襲○帶（丸帶、鯨帶、男帶）○夜具（夜着五種、布團四種、ドテラ、西洋寢衣二種、寢冷不知二種、蚊帳三種）○東コート、合羽○油單（挾箱、簞笥、長持）○改良女服（大人物子供物）○婦人用猿股○西洋前掛（○大人物子供物）○海水浴着○子供洋服（六種）○被物類及び龜の甲腹掛○足袋、脚絆、手挿、手甲○半纒、腹掛半被類

右各種共一々詳細なる裁方寸法の圖解を示し懇切に縫方順序の説明あり○尚此次に發行すべき「普通裁縫講義」には子供大人の着物、羽織、被風、股引、シャツ等掲載可致候

東京市麴町區飯田町二丁目　**愛國婦人發行所**　電話番町　五百二十番　千七百四十五番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◉新案特許一〇三六二 衛生的な改良かもじ

本品の特長

一、根元にコロップを装置せるにより舊式のもの如く硬からず膚ざわり軟らかなり
二、皮膚を摩擦する事少き故禿頭の憂なし
三、頭痛癖ある婦人にも用ゐて爽快を覺えしむ
四、二百度の熱蒸氣にて消毒しあれば毛髮の傳染病を媒介する憂なし

◉諸かもじ製造販賣 田中金三郎
東京市神田區豐島町一七　振替貯金口座壹八壹八八

京橋、小寶特約店 大西白牡丹／本郷、兼康／淺草、百助商店／神田、三井商店／日本橋、柳屋／其他有名なる小間物化粧品店にあり

丸髷●島田●銀杏髷用其他

色白く艶をだす（大形廿錢　小形十錢　新小角十錢）
松澤ホーサン石鹸
●近來類似品あれば御買求の節は上部の商標に御注意を乞ふ○市内賣藥小間物化粧品店にあり
東京本石町四 松澤常吉

溫順。貞淑。優美の性情をそなへさすんとする婦女の好讀物

女學世界
二月一日 九巻第三號 正價一冊十分ヶ年二圓六十錢 郵税二錢

◎活ける新時代の婦人 淸藤秋子
△人間萬事に處する心の働らき 麻生正藏
△女敎員になりし私の覺悟 山蔭女史
△婦人が一人前となる能力試驗 婦人記者
◎時勢の進歩に伴ふ婦人の姿勢 井口あくり女史
△嫂の地位に居る者の心掛 朽葉女
△煮賣屋の娘としての私の境遇 筑紫礒子
△下女の見たる御主人公 某市會議員の下女某
◎愛情を倹約する人の幸福なる境遇 若き實業家の妻
△女子高等師範評判記 秋雨女
△新奥様の面影
△分娩時手當
△食物消化話
◎女聖人の日記……常光寺の孃

少女世界
二月一日發行 四巻第三號 正價拾錢 一冊郵税一錢 ◎前金郵税共四冊四十錢 八冊八十三錢 十二冊金壹圓五十六錢

△口繪▽……◎春の庭（彩色石版）美方筆◎梅林（彩色石版）生巣筆〰◎スケーチング◎誌友の面影◎二月の花◎新案の編物以上寫眞版

◎お伽小説 六の花片 巖谷小波
◎小說 輪の行衛 押川春浪
◎少女唱歌 梅の花 田山花袋
◉漁師の娘 當選
◉少女歌會 御殿の鶯
◉雪人形
◉忠犬ジム
◎少女小說 寫眞 西村渚山
◎少女小說 雪合戰 松井百合
◎少女小說 お嫁入り 沼田笠峰

博文館發行（東京市日本橋區本町）（郵便振替貯金口座東京二百四十番）

新着 土州本場珊瑚 直取引に付市價より一二割方格安に販賣仕候間何卒御光來の程奉希候
卅錢均一物は御進物に好評又持ち古るしの小間物交換仕候
益

皮膚特効美白新劑 チプリ化粧液

（小瓶三十グラム入 金貳拾五錢 送料四瓶迄八錢）

◉本品は西曆千九百〇六年の發明にして常用せば肌を軟密にし自然白色艶麗の美顏たらしめ「ニキビ」「ハタケ」其他「顏ノアレ」等に最も奇効あり
◉効能顯著なる爲め印紙貼用せり化粧水にして貼用せるは本品を嚆矢とす
◉東京市内は勿論到る處の賣藥小間物化粧品店にあり品切れの節は送料八錢（一四瓶迄）相添へ本舖へ御注文あれば直送す

日本一手販賣 東京日本橋區本石町 松澤常吉

御扇子
愛國婦人會御用達
京都寺町五條下ル東側 御影堂 持阿彌

最上醬油
キハク印
於臺路局博覽會 名譽大賞牌受領

キハク印醬油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判てすどーか其あぢのよくてそして經濟てあると云ふことを御ためし願ます

釀造元 千葉縣野田町 茂木七郎右衛門 信略號（キハク）又（ハク）

東京支店 日本橋區小網町三丁目 中野長兵衛 電話浪花五七七四

耳鼻咽喉病診療 入院應需
淺草區向柳原町二丁目二番地左衛門橋通り
中村醫院 電話下谷壹壹三〇

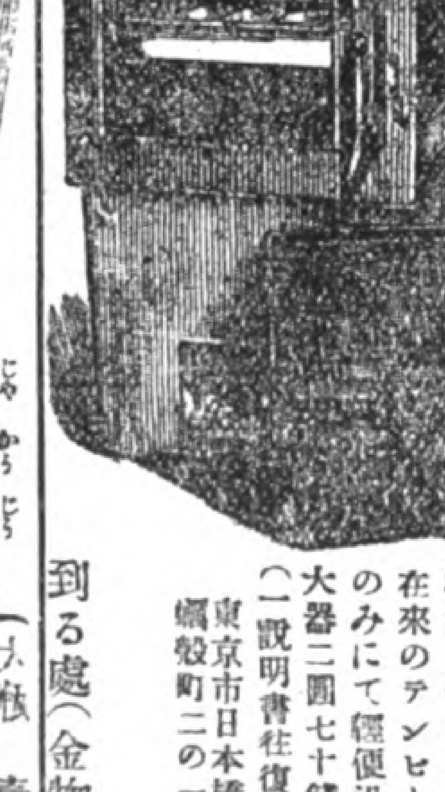
定價甲種一個金壹圓同貳個入壹圓七拾錢
乙種一個金七拾五錢同貳個入壹圓參拾錢

さよごろもゴム製にて嶄新の發明御婦人方の衛生上必ず携ふべき要用の良品なりさよごろもを用ゆるときはいかなる場合といへども痲毒瘡毒下疳等の傳染することなく又子宮を疵傷する患なしさよごろもは懷妊を望む御婦人は用ゆべからずこれを用ふるときは懷妊せざればなりさよごろもは月經の際經水の漏洩を防ぎ立居を便ならしむさよごろもの使用は本品を添て委細傳授すべし
○さよごろも入用の御人は御注文次第東京市内は無遞送料にて御届申上候其他地方は郵送料一個に付十錢にて何國何處を問はず御郵送申上候

東京市兩國米澤町二丁目一番地角 月やくはらひ通邪丸本舖 さよごろも發賣所 萬珠堂藥舖 吉田安五郎 電話浪花千百三十八番 振替二三〇六

目方ウリ 大俵炭
かます入 堅土釜切炭
神田三崎川岸 戸塚商店 電本參貳〇八番

家庭の重寳 世界好評



專賣特許 名和式蒸燒器（一名テンピ）
在來のテンピと異り頂上に火を要せず焜爐の火力のみにて輕便迅速に和洋割烹に最適當の器なり、大器二圓七十錢　中器二圓廿錢　小器一圓七十錢
（說明書往復はがき）

東京市日本橋區蠣殼町二の一五 名和商店 電話浪花一一七七 振替貯金一〇二五四
到る處（金物店洋食器店）にあり

（注意）

麝香獸印 ムスク香水
（大瓶 壹圓　中瓶 六十五錢　小瓶 二十五錢）
●芳香の永く保つ點にて高評也
近來類似品を販賣する者あれば御買求の節は右瓶の形狀及び二頭の麝香獸に御注意を乞ふ市内賣藥小賣物化粧品店に於て販賣致し居り候

東京日本橋本石町四 松澤常吉

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

㊍ 東京市日本橋區通一丁目
合名會社 森村銀行
電話(特)本局六七三番 電話本局四九八番
定期預金 六ヶ月以上 年六分五厘
當座預金 百圓に付日歩 一錢
小口當座預金 同日歩 壹錢參厘

ちゞれ毛くせ毛
白毛を未前に防ぐ特効あり
專賣特許願の藥にて妾御得意に試みし處一人として全治せぬ方なき奇藥なり困難者に告げたし往復はがきにて御照會あれ詳報す
東京市京橋區桶町四(女髮結業)山岡さだ子

東洋一の商品陳列即賣館
第一館 新橋角 電話新橋一六五二番 二二六一番 あらゆる物品を最も格安の正札附にて陳列販賣す
第一第二館内各店共通商品切手發賣……御買上品は市内無賃で配達致します……
第一 第二 帝國博品館
第二館 上野廣小路 電話下谷五三六番三〇四四番 館内あらゆる物品を最も格安の正札附にて陳列即賣するの外左記特殊の設備あり
喫茶店。和洋料理。ミルクホール。汁粉。壽司。菓子果物店。美術室。盆栽盆景。理髮店。夜でも撮る寫眞場。休憩所。上便所。洗顔場あり

見よ增欄新活動! 當來新文藝の曙光は本誌より發せん
新小說
二月號 拾四年第二卷
▼新曲 和歌の浦(これ著者會心の作)……坪内逍遙
▼尾ケ紅……泉鏡花 ●舞踊劇に對する予が作意の過去及將來……(坪内逍遙)
山上の舞妓……薄田斬雲 ●近代の道德說……上田敏 ●歷史小說の將來……竹越與三郎
燕尾服……高須梅溪 ●國民性と美術……海老名彈正 ●ふれ太鼓……後藤宙外
耽溺……岩野泡鳴 ●何んでも主義と職業難……志賀重昂 ●我國庭園の改造……高橋義雄
▼養鷄法……曙山 ▼美顏術……水藻 ▼活動寫眞見物……荷葉 ▲合同文士劇……厲阿彌
●本號より新設欄「塵談」「小景」「月旦」「寸鐵」評論、諷刺、訪問、即興、
(鏑木清方畫)
繪 和田英作、中澤弘光、鏑木清方、太田三郎、鰭崎英朋、精巧石版刷
定價二拾五錢 郵税二錢半
東京日本橋 春陽堂發行

胃病良藥 太田胃散

資本金千八百萬圓
東京京橋區木挽町 株式會社 十五銀行 電話新橋 三〇番 一五三〇番 三一九三番
同日本橋區新乘物町 同 日本橋支店 電話浪花 一九〇一番 三二七四番 三五〇八番
一 定期預金 六ヶ月以上年五分
一 當座預金 日歩七厘以下
一 特別當座預金 同 壹錢

東京神田美土代町三丁目十七番地
内科一般 午前宅診 午後往診 板垣亨
電話本局貳千九百七十番

院長 醫學士 鳥山南壽次郎
鳥山內科院
午前診察 午後往診
京橋區鎗屋町十一番地 電話新橋千七百四十六番

紅療診察時間 一日二十名限り 午前九時より午後四時迄
紅は百病に特効あり腦病脊髓病神經衰弱半身不隨呼吸器病消化器病脚氣リョーマチス泌尿生殖器病花柳病其他婦人科小兒科の熟練なる醫師をして治療に從事せしむ慢性患者には診療の上家庭療法を教ふ療用の紅酸は望により頒つ
東京麴町區飯田町四ノ卅一 大阪東區糸屋町一ノ五五 大氣堂 電話番町二〇四四番

小兒病診療
醫學士 內田愼太郎 淺草區福井町貳番地 宅診午前 往診午後
電話下谷七八一番

◎婦人科 ◎小兒科專門 午前宅診 午後往診
東京市麴町區飯田町四丁目九 女醫 鷲山彌生

しらが赤毛の人に告
一瓶一組小卅錢中五拾錢大一圓前金無送料代金引換注文は廿二錢申受、取次人申込該液劑は獨逸醫學博士の發明に弊店多年の試驗を加味せし新藥にて僅か十分間に染上り黑き光澤を發し美麗なるは烏羽の如し而して永久禿げる事なく毛を切らず皮膚に無害なるは弊店保證す明細書は郵券貳錢送れ
毛染所 東京京橋區本材木町三ノ四 岡田商店

●專賣特許實用新案眞綿細工
●眞綿細工にて洗濯の出來る品を製作するは弊所のみ
●日本國產眞綿細工各品は直接肌につけて着心ち最もよし

衣裳中入吹留眞綿 男女着物羽織(七十五錢以上)
好評なる肌着 薄製 一圓五十錢以上
半袖チョッキ 三圓五十錢以上

薄製婦人半股引二圓八十錢以上 チョッキ二圓以上
腹巻一圓十錢以上 半ズボン下三圓五十錢以上 足袋中ばき二十錢以上
衣裳中入吹留眞綿眞綿細工品は多年苦心の作三越吳服店其他にて衛生經濟兩全の實用品と認めらるは總て洗濯の出來ると高尚優美と着心持のよきとに好評を得
特約店
三越吳服店にあり
東京銀座四 大和屋 電話新橋一七七六
東京芝西久保葺手町 さかいや 電話新橋一五四九
東京本郷四丁目 綿柳屋 電話下谷二六五九
白木吳服店にあり

●製造元 麻布吹留眞綿製作所

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

宮内省御用達
最上醤油之元祖
上
開業貳百六拾五年
醸造元　濱口合名會社
下總銚子町
振替貯金口座五〇貳番

最上醤油
品質ハ上十印ト少シモ異リナシ
發賣元　濱口吉右衞門
日本橋區小網町三丁目廿七番地
醸造元　濱口吉兵衞
千葉縣銚子町

寒中は花王石鹸の品質を實地に試るの好時季なり

寒中と雖も肌を滑に美しくし皮膚の荒れざるは花王石鹸の特色なり

樂器
十字屋
東京銀座

良藥にして口に甘し

たんせきに
すきはらにめし
あさだあめ
浅田飴
たんせき　ひきかぜ　はいびやう　よわき　くだよし
東京本店　堀内伊太郎
支店大坂
取次全國藥店
定價　金五錢　金拾錢　金貳拾錢　金五拾錢

意匠登錄
玉おしろい

水原産科婦人科病院
○神田猿樂町十二番地
○電話本局千八百九番
○院内ニ産婆學校アリ

婦人科産科　木村病院
院長ドクトル木村順吉
京橋卅間堀一丁目角（電話新橋二二六七〇番）

妾事毛にて種々藥を試みしも効なく醫學士博士夫人迄所々より寄藥を得薄毛も濃くなり生へざる毛生し嬉さの餘り困る方に分與せしに三百餘の禮狀を受け不思議のまゝ尚困難者へ告ぐ三錢郵券添御照會あれ……
東京々橋越前堀一ノ四　河村愛子

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人廣告取扱
京橋區數寄屋橋外 弘報堂
神田三河町 博報堂
京橋區南紺屋町 一星社
東橋區南鍋町 秀逸社
日本橋區上槙町 萬年社
日本橋區蠣殻町 春風舍
京橋區宗十郎町 正路喜舍
京橋區日吉町 帝國通信社
同區彌左衛門町 京華社支店
同區南鍋町 廣告社
本郷區湯島 弘進舍
神田須田町 金蘭社

洗用ワッセル

●此ワッセルは油じみ油あか如何なる汚れでも揉ずに必ず落る石鹼曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります
●用法は湯一升に二匁（小杯へ半分餘）の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し後湯又は水にて洗へば自然に脱ますシャツの如きは（拾貳号）入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髪は一匁五分を一升餘の湯に溶し拭してかもじを洗ふ樣に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具の拭き掃除にも有効です

定價　拾貳号入 金拾五錢　袋入二錢
　　　六号入 金八錢

東京市京橋區三十間堀三丁目　電話新橋一七一二
米國製ワッセル日本一手販賣元
御肌洗ひこ芳香ワッセル製造元
三友商會

神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）
内科病特に腦脊髓神經疾患
峰内科醫院
院長ドクトルメヂチーネ　峰秀世

久能木式石油厨爐

二號形にて僅か廿分間に二勺の石油で一升のお飯が炊け魚を炙餅を燒くも臭くなく又裁縫用の鏝燒等には便利此上なし尚本器は胴を取り外さず點火しうる故尤も手輕に取扱わる

第一號形　金二圓二十錢より……
第二號形　金三圓二十錢より……
第三號形　金三圓八十錢より……
目録定價表御申越次第御送り申上候……

東京日本橋區室町三（電話本局二八九番）

久能木商店

女生徒募集　認可　東京女子商業學校

東京神田仲猿樂町（三崎町電車停留場前）

目的　●本校ハ自宅ニテ商業ニ從事スル者商店會社銀行工場官衙等ノ店員事務員ヲ養成ス
●本校ハ經濟思想ニ富ミ質實勤勉ニシテ一般家庭ノ主婦タルニ適スル貞淑ノ婦人ヲ養成ス
●本校ハ小學及補習學校ノ商業科受持敎師ヲ養成ス

科別　▲本科三箇年　尋常小學卒業者ハ一年ニ高等小學卒業者ハ二年ニ入ル
▲夜間速成科一箇年　高等小學卒業前後ノ學力アル者ヲ入ル
▲專攻科一箇年　高等女學校卒業者ヲ入ル
▲師範科一箇年　高等女學校女子師範學校卒業者及尋常小學校正敎員ヲ入ル

就職　●本校ノ敎課ハ社會ノ需要最モ盛ナルニヨリ卒業後企望者ノ爲ニ就職ノ途アリ

宿舍　●遠來者ノ爲メ本校職員ノ監督セル宿舍ノ設ケアリ成ルベク經費ノ節減ヲ計リ且ツ家庭生活上必須ナル事項ノ實習ヲ行ハシム

設立者　正六位　文學士　原龍豊

僅かに金五圓五拾錢の豫約にて千有餘年間の名品傑作を網羅したる國民畫鑑は購ふことを得。詳細は前號本誌の廣告欄を見給ふべし。

東京京橋新肴町十三
審美書院
電新三〇五五

内科専門
神田區駿河臺
電本一六六九
杏雲堂醫院
院長醫學博士　佐々木政吉

●婦人病専門
院長　櫻井克己
芝明舟町十九　虎門外宮樣前
電話新橋三三二四
櫻井醫院

產科婦人科専門
診察毎日午前　入院隨時
淺草區左衛門河岸
電話下谷一〇二八
岩田病院

故國木田獨歩遺著
小杉未醒氏裝釘
取かざるの記　後編
發賣元　京橋區南鍋町一　隆文館
振替口座八五三番

彼が哀痛斷腸の失戀史を讀め!!
後篇新刊三千部限り特價貳圓十六錢（送料金・函入頗美本）（定價二圓半）
田山花袋田村江東齋藤弔花三氏校滿谷國四郎氏小杉未醒二氏畫及び裝訂

●大黒天印　宮崎葡萄液

宮崎葡萄液は理學博士藥學博士長井藥學博士下山兩先生の指導の下に創製せしものにして恰かも葡萄の實を食するが如く毫も酒精分を含まず腦を刺撃するの虞れなく香味共に佳良にして消化力を助け血を增し肉を肥やし日常これを飲用せば偉大の效を奏し衛生上必須の飲料なり
▲ブランデー、ウヰスキー等に混ぜ飲用せば其の味ひ最も妙なり
▲御婦人又は酒を嗜まざる人の交際場裡に最適當の好飲料なり
定價大壜一打四圓　小壜二圓三十錢
東京市日本橋區通旅籠町（電話浪花八七〇）振替口座一九三七番
宮内省御用達
發賣元　甲斐產商店

發行部數東洋第一　本誌の大文字を見られよ

婦人世界

二月一日發行　四卷第貳號
毎月一回　一冊拾五錢　郵税一錢五厘　增刊共半年一圓五錢　同一年分二圓五錢　郵税不要

◎夫婦の情愛は度合が肝要：
婦人界大評判　村井弦齋
◎古今和漢文藝談（渡邊白水）
◎千代田大奥の女中（生活の眞相：村田）
◎士族の娘が商家に嫁入して驚いたことの始
◎大根料理の實際（弦齋夫人）
◎姙婦の看護方（婦人選：榊博士）
◎嘉悦孝子女史の雜巾がけ：
◎十二人の子供を敎育せし苦心：松山棟庵
◎舅君を感服させたる新渡戸博士夫人の話
◎斯の如き婦人は妻君に及第す（檢定試驗）：山脇房子
◎私の今日あるは母と妻と婢のお陰：三輪田元道
◎雙生兒を母の手一つで育して實驗：與謝野晶子
◎婦人の毛髪　美育法：岡村博士
◎名流婦人十八歳當時の回顧
◎歷史講談　節婦の最後（刀水漁郎）
◎京都女　學生の風俗：
◎貴婦人の新年會　記者
◎懸賞文藝△習字△口繪其他
◎田舎から出て墮落せる婦人の小說　的實例　原胤昭
◎盲目の學士に嫁して良人を慰藉せる貞女の鑑　一記者

實業之日本社　東京京橋南紺屋町十九　郵便振替貯金口座三二六番　電話新橋八七四番　賣捌　全國各地書店

明治四十二年二月五日發行（毎月五日廿日二回）
（定價金三錢五厘一ヶ月七錢郵税不要）
廣告料一行金六拾錢
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　永持徳一
發行所　東京麹町區飯田町　愛國婦人發行所
發賣所　同　京橋區南鍋町　株式會社隆文館
印刷所　東京市牛込區市ケ谷加賀町秀英舍工場

附錄 愛國婦人會記事

評議員會　一月廿七日午後二時より本部に於て開催、臨時擴張部職務規定の件及總會に關する件、赤阪授産場不用建物を本部構內に移築の件等に就て商議し、午後四時閉會せり、當日の出席者は岩倉會長始め左の如し。

近衞貞子、東鄕鐵子、清浦錬子、丹羽花子、濱尾作子、山脇房子、戶田時子棚橋絢子、松平須磨子、原口關子、關郞子、大谷加知子、有馬幾子、押川愛子、龜井眞州子、高橋壽々子、松浦島子、柳谷千代子、渡邊げん子、加藤喜代子、下岡まつ子、正田とく子、仁杉歌子、菊池かん子、高木錬子

故奧村五百子氏法要　本號第一面の會告に見ゆるが如く、豫定よりは一日繰上げ、本月六日午後一時より淺草本願寺に於て、その三週忌法要を營むに付、會員諸氏は隨意參拜せられたし。因に乘て設計中なりし氏の墓碑も今般漸く出來せり。

視察及擴張　本會擴張委員八田一精氏は會況視察並緞養牛募集に關する件に付打合の爲、一月十七日東京出發福島宮城栃木埼玉の四支部を巡回し同月二十二日に歸京せり

因に記す何れの支部も會員募集に關し夫々計畫中にして就中福島支部は大々的活動を開始せし由

支部近況

△東京支部▽

神田幹事部　授産場を代表し横幕むら子氏始め諸幹事にては例年の如く去月廿三日午後廢兵院を訪回慰問の意として羅接菓子、飴等約五十圓の金額に相當するものを寄附せりと

▽德島支部△

新年互禮會　一月五日午前十時より德島公園內千秋閣に於て篤志看護婦人會員將校婦人會員と合同にて新年互禮會開催併て戊申詔書奉讀式を擧行せり、當日參列者の主なるは、渡邊顧問、堀內相談役古川若林兩病院長、吉田工業學校長、齋藤高等女學校長、岡本斯文翁及婦人側には渡邊文部長、渡邊堀內兩副長、太田少將夫人、橋口大佐夫人以下三會職員會員等百三十餘名にして先着會員より順次總裁殿下の御眞影を拜して一同大廣間に着席、渡邊顧問の詔勅奉讀、岡本斯文翁の聖旨の大要演說、渡邊支部長の新年の挨拶あり、終つて開宴、落語福引等の餘興ありて午后四時閉會せり。

▽韓國本部△

大邱委員部　慈善演藝會及軍人送迎に關し左の通り報告に接したる旨、同本部副長兒玉伯爵夫人より報告せられたり。

一、客年十月四日より同年十一月十一日に至る間軍隊當驛通過相成候處、多くは夜半にして而も一夜數回に及候「有之候へども停車場には當委員部接待席を設くるは勿論、委員部長以下數名每回出席休憩中の軍人に對しては茶菓を供し且つ送迎をなし又當地駐剳の幾部歸還に付ては物品を寄贈する等敬意を表したる義に有之候條此段及報告候也

十二月四日　大邱委員部長久水和歌子

客年十一月廿五日より同廿七日に至る三日間當地劇場錦座に於て當大邱幼稚園基金募集の爲、慈善演藝會開催會場には萬國旗を揭る等遺憾なく裝飾を施し、出演者は何れも當地に於る紳士貴婦人令孃にして琴曲琵琶活人畫等何れも喝采を博したり而して廿七日は主として韓國人を勸誘觀覽せしめたるに終始靜粛の中に盛會を極め殊に本部備付の活動寫眞中韓國皇太子殿下御近況の活動寫眞を拜觀したる時の如きは、觀客の情に堪へざる者の如く拍手して止まざりし次第に有之當委員部に於ける此擧は頗る世の同情を得たる義に有之就ては今後會務擴張上一層の便宜を得る義と存候右不取敢及御報告候也

十二月四日　大邱委員部長久水和歌子

韓國本部長殿

▽臺灣支部△

慰問に對する禮狀　當支部にては先に南投廳管內の隘勇線前進隊に對し慰問品購入費として金四百圓又花蓮港暴動生蕃討伐の軍隊及警察官に對し慰問として酒卷煙草タオル塵紙等寄贈せしが今回司令官及兩廳長より何れも大島支部長宛にて左記の通禮狀到達せり。

肅啓今回當廳隘勇線前進に付隊員に對し慰問として金圓御寄贈を辱うし感謝の至に奉存疾早速傳達致候處一同御芳情の深厚なるに感激し隊員の元氣十倍致候先は隊員一同に代り不取敢御挨拶申上度如此御坐候敬具(能勢南投廳長)

御慰問として物品御寄贈に預り部下軍隊を代表し御禮を申上ぐ右會員へ可然御達を乞ふ(在花蓮港摺澤司令官)

愛國婦人會より討伐軍隊警察官に對し慰問品御送付相成正に拜受感謝に堪へず御一同に對し可然傳達を願ふ(森尾臺東廳長)

▽富山支部△

拜賀式　去月十日午前十一時より赤十字社富山支部會議室に於て總裁宮殿下御寫眞拜賀式を擧行せしが來會者四十餘名先づ第一鈴を以て開式を報じて一同起立し宇佐美支部長を始め密田永井兩支部副長評議員幹事一同に續て宇佐美支部顧問永井伊東の兩參與以下加藤主事、並事務員一同拜禮をなし、次て支部長には一場の挨拶あり、第二鈴にて式を終り各自設けの席に着くや、茶菓の饗意をなし三孝樓櫻川一座の講談並に蓄音機等の餘興もありて一同和氣藹々の裡に散會せしは午後三時過なりしと、

▽岩手支部△

評議員會　去一月十六日岩手縣廳內に開く午前十一時開會出席者左の如し、

笠井支部長下田副長評議員及川シゲ子小野カネ子萱場久惠子吉野トラ子成田譽徒子長岡粂子小林ミキ子近マサ子江崎田鶴子佐倉八重子佐土原ツナ子三田テル子笠井顧問田中時實兩相談役

笠井支部長議長席に着き明治四十一年度決算の報告をなし木原主事及菊池事務員之を說明し滿場一致之を承認、引續き明治四十二年度經費豫算附議を開き原案を可決す、右畢て木原主事の送別會を開く笠井支部長を始め支部職員及評議員長谷川岩手郡幹事部長大矢盛岡市幹事部長等來會する者三十餘名、頗る盛况を呈す一同午餐を共にし午後二時散會せり。

▽大分支部△

慰問品寄贈の件報告　速見郡幹事部內同郡朝日村會員より韓國守備步兵第四十七聯隊近々歸還せらるべきに依り、駐剳中の勞苦を慰藉するの微意を表する爲、客年十一月七日直接該隊へ、慰問袋三百十二個、朝日高等科生徒繪葉書八十枚を寄贈したり。

甲信越軍隊輸送日記

(二)

本會顧問陸軍步兵第五十八聯隊長陸軍步兵大佐　堀內文次郞

前々號に述べた如く下諏訪町會員方の熱誠を込めし歡待を受けたる各兵は今日も尙その溫情と名物しゞみ汁を思出しては語り合つて悅んで居ります。

諏訪郡各地では狀袋柿味柑せんべい齒磨など各兵に迄十分贈與せられたる御厚意は永く忘れられません

パークリーム
東京

松本市にても幹事部長始め皆様が未明の寒天に奔走せられ御盡力下されたるは深謝に堪へません

長野市にても停車場內外に兵卒の休憩所を設備せられ一々茶菓を各兵に贈與せられたる御厚意を深謝致します

長野以北は當聯隊の壯丁の出身地故會員と否とを問はず狂はん計りの歡迎を受けたのでムいました

高田町にては特に各會員方盛に御歡迎下され全隊深く謝すると同時に將來の希望を浮べたるもの丶如し。

今回の輸送途中の歡迎に付各地愛國婦人會員方が如何に奮起せられしか、溢るる計りの熱情に如何に各將校下士卒が感動せしか、愛國婦人會なるものが平時に在りても如何なる働きを見はすものなるかを遺憾なく發揮せられたる事を、謹て總裁殿下に御報告申上ると同時に、全國會員方に御通報致す私の悅びは筆紙に盡されませぬ、

終りに臨み、甲信越各地本會員諸君に對し私は我が聯隊を代表し且つ顧問として繰返し御禮を申上げ尙將來の御奮勵と御健康を祈ります。(了)

營業案內
種苗　農具
春の部　無代進呈
東京內藤新宿電車終點際
日本種苗株式會社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

鹿兒島支部遊說日誌

第一報告

野中彌知子

十一月二十七日午後三時卅分新橋發最大急行にて出發
十一月廿八日午後八時卅分馬關着直に聯絡船に乘込み同九時廿分門司港に上陸同卅分同停車に着同十一時廿分同驛發列車にて出發
十一月廿九日午前三時鳥栖驛にて乘替同時卅分人吉驛着直に九時五十分同驛發馬車にて吉松停車場に向ふ此道程十一里四丁餘に渉ゆる高嶺に馬車を驅り上け驅り下す其危險なること筆紙の盡す所に非す峠既に度乘替午後五時卅分同驛着同七時同驛發列車にて鹿兒島に着せしは九時五十分過鹿本支部長鹿本副長染川荻原兩評議員佐々木會員其他十餘名市來主事停車場に出迎はれ山城屋旅館に投宿
十一月卅日午前島津鹿本兩副長島津(治子)染川荻原三評議員有川市長(夫人)來訪十一時頃島津染川荻原有川夫人市來主事と共に磯鳴館に到り意響を濟し一同城山南洲翁の墓所に參詣夫より島津評議員の案內にて有川夫人森山事務員同行海岸なる島津家磯御殿の庭園を見物し櫻島を前にし右手に賞り遙かに遠く薩摩富士を望み其絶景日本一と謂ふも恐らく過言には非ざるべし

川邊郡遊說日誌

十二月一日午前九時染川荻原兩評議員森山事務員同行馬車にて川邊郡幹事部所在地加世田に向ふ此道程十一里午後三時卅分着大鍋幹事部長副同鍵坂吉峯楠元幹事隈生郡視學吉峯村長守御事務員出迎はれ鍵永旅館に宿投
十二月二日午前十時大鍋幹事部長鍵坂楠元吉峯三幹事の案內にて染川荻原兩評議員森山事務員同行大崎海岸に松露狩を爲し沙上に於て饗應の饗應を受け午後一時歸宿二時小學校に於て開會聽衆四百餘名違旗卅三名出席中には三四里の遠方より來る者六七名大鍋顧問開會辭了て講話四時四十分閉會後違旗に菓子を贈與し直に吉野屋旅館に於て幹事部並に幹事諸氏の催しなる晩餐會に臨み大鍋顧問夫妻鍵坂校長夫妻始め都合三十名の席上終始一貫一旬歡會事ならざるなく其一致和合して精神的の會合は他に比類稀なる程なりき一同歡を盡して散會せしは九時鍵永旅館に宿泊　因記當日講話會に付鍵坂楠元吉峯幹事非常に斡旋の勞を執られたり
十二月三日午前伊集院島津家在加世田竹田神社に參詣九時卅分前日出迎はれし諸氏に見送られ馬車にて歸途に就けり午後四時卅分着鹿島山城屋旅館に宿泊

始良郡遊說日誌

十二月四日午前十時鹿兒島發列車にて鹿本支部長荻原評議員月野事務員同行始良郡加治木町に向ふ十一時着停車場に大山顧問幹事會員事務員三四十名の出迎を受け會場なる本願寺別院に入る午後二時開會聽衆四百餘名大山顧問開會辭了て講話四時卅分閉會後違旗癈兵三十餘名に支部長より菓子を贈與し四時五十分同驛發列車にて出迎はれし諸氏に見送られ歸鹿山城屋旅館に宿泊
十二月五日午前十時當市東本願寺に於て開會鹿本支部長島津鹿元兩副長荻原評議員幹事役員出席零時閉會午後二時西本願寺に於て開會聽衆一千餘名鹿本支部長開會辭了て講話五時閉會當日重なる出席者は鹿本顧問谷內務部長百瀨裁判所長町田顧問銀行會社員流石は本邦三大關の首席を占め勤王の主唱國武士道の本場なれは殊に精神的の會合にして非常なる盛會なりき
十二月六日午前九時より荻原評議員の案內にて鹿本支部長島津鹿元兩副長島津評議員兩家顧谷內務部長夫人警務長有川市長町田顧問を訪問午後二時卅分より照國神社前に於て第六回總會開會當日は天氣快晴來會者八百餘名尤も今回は例會の否なりしを總會に直し唯重立たる人々の會合にして一市十二郡の大總會に非ず

式次

第一鈴　會員着席
　　　　役員着席
第二鈴　來賓着席

一、一同敬禮
二、開會の辭　鹿本支部長
三、君が代奏樂（オルガン）
四、戊申詔書捧讀　鹿本顧問
五、總裁殿下御眞影開披　鹿本支部長
六、總裁殿下御諭旨捧讀　鹿本支部長
七、會長祝詞　島津副長
八、答辭　鹿元副長
九、救護金贈與　鹿本支部長
十、御眞影閉披　鹿本支部長
十一、事務報告　市來主事
十二、來賓祝辭　演說　百瀨裁判所長　志々目縣會議員
十三、閉會の辭　野中彌知子

會員は式後菓子、折詰券と引換に折詰を受取り城山公園浩然亭、柳月亭にて饗應遊散茶を喫す蓄音器の餘興あり
六時より鶴鳴館に於て當日出席の幹事部長幹事を招待宴會は開かれたり當夜は島津副長島津評議員も出席され非常に盛會を極め席上薩摩琵琶の餘興あり一同歡を盡して散會せしは十時比なりき
十二月七日午前八時五十分鹿兒島發列車にて染川荻原兩評議員月野事務員同行始良郡國分に向ふ同驛に下車するや幹事部より大重池田兩郡書記山元國分村長西田囎唹郡書記各出張出迎はれ一同馬車にて途中下車鹿兒島大神社に參詣目的地に向ふ同村より廿丁手前に旗を翻し同村一の富豪家山內甚之進山內吉之進（兄弟）氏幹事會員五六十名の出迎を受け零時過着會場祈正寺に入る午後二時開會聽衆六百餘名大重一課長開會辭了て講話四時卅分閉會後違旗三四十名に菓子を贈與し六時より山內氏の案內にて幹事會員有志者の催しなる茶話會に臨み席上薩摩琵琶の餘興あり一同歡を盡して起立萬歲を三唱し散會せしは十時頃なりき祈正寺に一泊
因記當國分村は山內氏兄弟最非常に公共事業に熱心にて殊に大書すべきは毎月十五日を以て諸婦更代水なき所には（バケツ）に水を汲み入れ持歩き香華を供え戰死者の墓參を爲す一事なり

囎唹郡遊說日誌

十二月八日午前四時起床六時出發山內氏幹事會員見送の爲來明より來集染川荻原兩評議員月野事務員前日來より當國分迄迎の爲來着の岡田郡書記違旗行先より歸途中なる村尾囎唹郡視學全行馬車にて囎唹郡幹事部所在地岩川に向ふ國分岩川間道程十一里中峻坂難路途中樂谷幹事部長幹事會員二三十名の出迎を受津田旅館に投宿せしは午後一時比なりき二時小學校に於て開會聽衆五百餘名樂谷顧問開會辭了て講話四時十分閉會後津田旅館に引返し六時より他の旅館に於て幹事會員有志者五六十名の催しなる晩餐會に臨み將來會員募集上に付一場の講話をなし一同歡を盡して散會せしは十時頃なりき津田旅館に宿泊せり
十二月九日午前八時出發染川荻原兩評議員月野事務員幹事部よりは樂谷顧問四田郡書記前日來迎の爲志布志町より來着の佐藤平山兩幹事役場助役同行馬車にて同町に向ふ岩川志布志同道程九里零時過着富豪安田宗太郎氏邸に入る午後一時本願寺に於て開會聽衆一千餘名樂谷顧問開會辭了て講話四時五十分閉會六時より海岸具樂部に於て幹事會員有志者五六十名の催しなる晩餐會に臨し擴張上に付懇談を爲し一同歡を盡して散會せしは十時比なりき安田氏に一泊　因記當地は軍婦人會事業にて婦人の勇壯活潑なること縣下第一なり年中公私の宴會に婦人の手料理を以て客を待遇する習慣にて膳椀道具迄一切婦人の當所にて備え居れり

肝屬郡遊說日誌

十二月十日午前八時出發染川荻原兩評議員月野事務員郡界大崎迄見送の四田郡書記前日先方より向の爲來着の吉野郡書記同行馬車にて肝屬郡幹事部所在地鹿屋に向ふ志布志鹿屋間道程九里途中大崎にて四田郡書記に告別當大崎熱心者富豪家未亡人（幹事）串良迄車上見送られ是にて告別午後一時着河野旅館に入る二時寺院に於て開會聽衆五百餘名竹下顧問開會辭了て講話四時五十分閉會六時より旅館に於て幹事の催しなる晩餐會に臨み擴張上府此談を爲し一同歡を盡して散會せしは十時頃なりき河野旅館に宿泊せり
十二月十一日午前九時出發染川荻原兩評議員月野事務員幹事部より見送の竹下幹事部長幹事十餘名石踊一課長全行馬車を驅り道程二里中々の古江濱に向ふ十一時着同濱より流船に乘込み鹿兒島に向ふ小船にて幹事部長一行の見送を受け告別出帆當日は天氣快晴海上恰も池水に船を浮べし如く櫻島を右にし開門嶽一名薩摩富士を遙に遠く左に望み其風景の絕佳なること九州第一に非ずして恐らく日本第一ならん一同無事着鹿兒島上陸せしは午後二時中愛甲評議員出迎はれ直に山城屋旅館に入り一時より海岸なる風景樓こ於て鹿本支部長鹿元兩長島津評議員幹事の催しなる送別會に臨み六時卅分車を驅り當市男子有志者の發起に係る講話會場西本願寺に到れは聽衆堂に充溢し無慮二千二三百名七時開會有川市長開會の辭を述へ了て登壇講話場內如無人靜肅十時十五分閉會今回講話會に付去五日十一日兩度とも尤も熱心に盡力されし又西本願寺にて講話會前四回も婦人を集め出席勸誘に努められ又當市上野閣に（故奥村女史）生前知人なる町田貫一氏（本會顧問）有川市長其他有志者非常に斡旋の勞を執られ非常に盛會なりき

登錄商標
白園　黎　茶
杉本三五園茶舖
本店　京都綾小路西洞院東　電八八五番
支店　大阪高麗橋四丁目　電東四四二五番
出張店　名古屋玉屋町四丁目
出張店　東京日本橋區田所町　電浪花四〇三三番

足袋販賣廣告

一足袋は愛國婦人會東京支部授產場に於て軍人戰死者遺族並に癈兵家族の裁縫したるものにて尤も丁寧親切に調製してあります又直段も格別安く販賣致します
一足袋の地質は特に吟味しあれば直段の安き割合に丈夫に出來て居ます故御求の上御驗を願ひます
一足袋は裁縫々師として郡下有名の職人を雇入れ其監督の下に出來たるものにて形も好く又穿き工合の宜しき事は昨年來旣に御使用の方々の間に好評を博し居ります
一足袋の種類は左表の外紺氖斯織、コール天、あり外にシャツ袴下小兒胸掛（エプロン）西洋前掛等も調製販賣致します
一純白絹天足袋は美麗なる箱入てあります故御進物等には最適當と思ひます
一市內に限り十足以上は送料を申受ません

東京市麴町區飯田町九段坂下公園
愛國婦人會東京支部
授產場販賣部
電話番町　五二〇、一七四五
郵便振替口座　一五、一一四

足袋販賣價格略表

種／文	紺雲齋底	紺石底	白木綿雲齋底	白木綿石底	白キャラコ木綿裏雲齋底	白キャラコ綾羽裏雲齋底	純白絹天木綿裏雲齋底	純白絹天キャラコ木綿裏雲齋底
十文	廿九錢	三十錢	廿六錢	廿七錢	廿七錢	廿八錢五厘	五十錢	三十三錢
九文	廿七錢	廿八錢	廿四錢	廿五錢	廿五錢	廿六錢五厘	四十八錢	三十一錢
七文	十七錢	十七錢五厘	十五錢	十五錢五厘	十七錢	十八錢	三十六錢	廿二錢

注意（御誂別製は壹錢以上增、縫目なし貳錢增、單足袋は袷より貳錢增、爪先三枚は貳錢五厘增、裏紋羽は壹錢五厘增）

〇八文七分以上は半文每に壹錢增

腦神經精神病科
病室清新　診療確實
東京龍戸町　電話浪花二五五二
加命堂腦病院

婦人科產科榊病院
院長　醫學博士　榊順次郎（婦人科產科 每日午前診察）
副　醫學士　久保德太郎（婦人科內科外科 的留守中）
副　醫學士　田代謹二（婦人生殖器病及泌尿器病 科一般火木土午後診察）
●施診火木土午後一時至二時
麴町三番町三三（電話番町三九五）

岩佐病院　日本橋區蠣殼町二丁目廿三番地（電話浪花六九七番）
診察時間　自午前九時至正十二時
內科婦人科　院主　岩佐純
內科　ドクトル院長　岩佐新
外科　醫學士　山村正雄
產科婦人科　醫學士　西村漸
腦病脊髓病　醫學博士　土田卯三郎

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治四十二年二月五日(毎月二回五日廿日)發行
明治三十五年三月二十七日第三種郵便物認可

故奥村五百子刀自小肖

發行兼印刷人山澤俊夫　編輯人永持德一　發行所　愛國婦人會內愛國婦人發行所
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN